

新潟中央短期大学

平成 29 年度 シラバス

## 第15 平成29年度講義概要 (シラバス)

*教養科目 .....			39
コミュニケーション論	39	心理学	40
子どもと人権	42	日本国憲法	43
音楽概論	45	体育講義	46
英語会話	48	中国語会話	49
*専門教育科目 .....			50
社会福祉	50	相談援助	51
保育原理	53	社会的養護 I	54
保育者論	56	保育の心理学 I	57
子どもの保健 I	59	子どもの保健 II	60
家庭支援論	62	保育課程論	63
健康指導法	65	人間関係指導法	66
言葉指導法	68	表現指導法	69
障害児保育	71	社会的養護内容	72
音楽表現	74	ピアノ表現 I	75
身体表現 I	77	言語表現	78
子ども・子育て支援論	80	保育相談の実際	81
子どもの保健実習	83	保育内容総論 II	84
表現活動指導法	86	ピアノ表現 II	87
身体表現 II	89	レクリエーション実習 I	90
保育実習 I (保育所)	92	保育実習指導 I (施設)	93
保育実習 II (保育所)	95	保育実習指導 II (保育所)	96
保育実習指導 III (施設)	98	保育指導法	99
教育実習 II	101	幼児教育教材研究	102
レクリエーション概論	104	レクリエーション実習 II	105
		児童家庭福祉	52
		教育原理	55
		保育の心理学 II	58
		子どもの食と栄養	61
		保育内容総論 I	64
		環境指導法	67
		乳児保育 I	70
		保育相談支援	73
		造形表現 I	76
		保育・教職実践演習	79
		保育臨床心理学	82
		乳児保育 II	85
		造形表現 II	88
		保育実習 I (施設)	91
		保育実習指導 I (保育所)	94
		保育実習 III (施設)	97
		教育実習 I	100
		コンピューター基礎	103



## 幼児教育科 教養科目

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
コミュニケーション論	教養科目	1年次 前 期	講 義	2	石本 勝見	資料の配布、呈示等の予定
<p>[授業の概要]</p> <p>我々は、どのようにして相手を理解し、自分の思い、言いたいこと等を相手に伝えているのだろうか。この授業では、特に対人コミュニケーションについて、理論的な面と同時に、実際的実践的な面での、よりよいコミュニケーションについて学ぶこととする。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションについての基礎的な理論、知識を学ぶ。</li> <li>・各受講者は、授業開始時より、更によりよいコミュニケーションができるようになる。</li> </ul>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 コミュニケーションとは</li> <li>2 聞く             <ol style="list-style-type: none"> <li>2-1 聞き手は話さない</li> <li>2-2 相づちの種類、タイミング</li> <li>2-3 自分のことは話さない</li> <li>2-4 他人のことはできない</li> <li>2-5 聞かれたことしか話さない</li> <li>2-6 聞く 聴く 訊く</li> <li>2-7 なぜ聴けないか</li> <li>2-8 相手が伝えたいことを理解する</li> </ol> </li> <li>3 伝える             <ol style="list-style-type: none"> <li>3-1 アサーション</li> <li>3-2 言いたいことと相手の受け止め</li> <li>3-3 自己表現の三つのタイプ</li> <li>3-4 うまく自己表現するために</li> <li>3-5 言葉以外の自己表現</li> </ol> </li> <li>4 学びの確認と振り返り</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>コミュニケーションの基本である「聞く」ことを授業でもしっかり実践してほしい。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>筆記試験又はレポート</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
心 理 学	教養科目	1年次 前 期	講 義	2	佐々木宏之	プリントを配布
<p>[授業の概要]</p> <p>保育・幼児教育の現場では、子どもたちの心身の状態の把握、心身の発達を促す指導、心身の安全・安定を保つ支援が求められる。そのため、保育や幼児教育に携わるものは、子どもの心理についての十分な知識をもつことが望ましい。この講義では、幼児心理を学ぶ上での基礎となる人間の心理について広く理解する。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>心理学の基礎を学び、自分の心理を理解する。 心理学の基礎を学び、他者の心理を理解する。</p>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一般心理学と臨床心理学 …… 心理学の基礎と応用</li> <li>2. 心理学の歴史的背景</li> <li>3. 感覚・知覚 …… 心は世界をどう捉えるのか</li> <li>4. 高次認知 …… 高度な情報認識について</li> <li>5. 注意と意識 …… 身の周りの世界への意識</li> <li>6. 記憶 …… 憶えることと思い出すこと</li> <li>7. 学習 …… 経験し、身につけること</li> <li>8. 欲求・動機づけ …… 「～したい」という心理</li> <li>9. 感情 …… 自分の気持ち、他人の気持ち</li> <li>10. 対人認知 …… 人間関係における心理</li> <li>11. 集団心理 …… 他者の存在と影響</li> <li>12. 性格の理解 …… 性格についての理論</li> <li>13. 性格の測定 …… 性格テスト</li> <li>14. 知能 …… 知能の理論と測定</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>自分の心と他者の心に興味をもつこと。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>実験・調査レポート。</p>						

科目	種別	開講時期	授業形態	単位	担当者	テキスト(書名・著者・出版社等)																																																												
国語表現法	教養科目	1年次 前期	講義	2	峰本 義明	『ギヴァー 記憶を盗む者』 コリス・ローリー、新評論、1620円 他に配布プリントあり																																																												
<p>〔授業の概要〕</p> <p>この授業では、「作家」が行なっていることを取り入れた「ライティング・ワークショップ」という方法で国語の表現を学びます。作家は自分の書きたいものを自分なりの方法で自由に書きます。この方法を取り入れることで、「書く」力は伸びていきます。</p> <p>授業では創作を中心としてたくさんの文章を書きます。それを他者と読み合い、相互評価していくことで、表現の技術を高めていきます。また、良く「書く」ためには「読む」ことも、他者と「話す・聞く」ことも必要です。そこで、授業では1冊の小説を読んできて、その内容について他者と語り合う機会を設けます。これらを通して「話す・聞く・書く・読む」力を総合的に養います。</p> <p>この授業では、皆さんの積極的な参加が求められます。自分の書きたいことや話りたいことを、大いに書いて話しましょう。表現することの楽しさを、一緒に味わっていきましょう。</p>																																																																		
<p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国語の表現をすることの楽しさを味わい、主体的に表現しようとする態度を持つことができる。</li> <li>2. 自分の考えを相手に伝わるように話し、また、他者の話を傾聴して共感・理解することができる。</li> <li>3. 読者を意識し、文章の型を踏まえて、自分の考えを確実に伝える文章を書くことができる。</li> <li>4. 本について他者と意見を交流することを通して、着実な読解力を身につけるとともに、今後も読書を続ける態度を持つことができる。</li> </ol>																																																																		
<p>〔授業計画・内容〕</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>：</td> <td>ライティング・ワークショップについて、発想法</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>短編の創作(1)</td> <td>：</td> <td>リレー作文</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>短編の創作(2)</td> <td>：</td> <td>物語の構造</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>短編の創作(3)</td> <td>：</td> <td>作品の相互評価、感想レポートの作成・提出</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>ビブリオバトルの体験</td> <td>：</td> <td>非言語コミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>ブッククラブ(1)</td> <td>：</td> <td>『ギヴァー』、本についての話し合い</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>ブッククラブ(2)</td> <td>：</td> <td>良い話し合いの条件</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>ブッククラブ(3)</td> <td>：</td> <td>他人の意見への共感・反論</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>ブッククラブ(4)</td> <td>：</td> <td>我々の社会へのリフレクション</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>ブッククラブ(5)</td> <td>：</td> <td>まとめと感想レポートの作成・提出</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>自由創作(1)</td> <td>：</td> <td>文章の型、パラグラフ・ライティングについて</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>自由創作(2)</td> <td>：</td> <td>短詩型文学の特徴</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>自由創作(3)</td> <td>：</td> <td>長編作品の書き方</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>自由創作(4)</td> <td>：</td> <td>推敲の方法</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>自由創作(5)</td> <td>：</td> <td>作品の相互評価、感想レポートの作成・提出</td> </tr> </table>							第1回	オリエンテーション	：	ライティング・ワークショップについて、発想法	第2回	短編の創作(1)	：	リレー作文	第3回	短編の創作(2)	：	物語の構造	第4回	短編の創作(3)	：	作品の相互評価、感想レポートの作成・提出	第5回	ビブリオバトルの体験	：	非言語コミュニケーション	第6回	ブッククラブ(1)	：	『ギヴァー』、本についての話し合い	第7回	ブッククラブ(2)	：	良い話し合いの条件	第8回	ブッククラブ(3)	：	他人の意見への共感・反論	第9回	ブッククラブ(4)	：	我々の社会へのリフレクション	第10回	ブッククラブ(5)	：	まとめと感想レポートの作成・提出	第11回	自由創作(1)	：	文章の型、パラグラフ・ライティングについて	第12回	自由創作(2)	：	短詩型文学の特徴	第13回	自由創作(3)	：	長編作品の書き方	第14回	自由創作(4)	：	推敲の方法	第15回	自由創作(5)	：	作品の相互評価、感想レポートの作成・提出
第1回	オリエンテーション	：	ライティング・ワークショップについて、発想法																																																															
第2回	短編の創作(1)	：	リレー作文																																																															
第3回	短編の創作(2)	：	物語の構造																																																															
第4回	短編の創作(3)	：	作品の相互評価、感想レポートの作成・提出																																																															
第5回	ビブリオバトルの体験	：	非言語コミュニケーション																																																															
第6回	ブッククラブ(1)	：	『ギヴァー』、本についての話し合い																																																															
第7回	ブッククラブ(2)	：	良い話し合いの条件																																																															
第8回	ブッククラブ(3)	：	他人の意見への共感・反論																																																															
第9回	ブッククラブ(4)	：	我々の社会へのリフレクション																																																															
第10回	ブッククラブ(5)	：	まとめと感想レポートの作成・提出																																																															
第11回	自由創作(1)	：	文章の型、パラグラフ・ライティングについて																																																															
第12回	自由創作(2)	：	短詩型文学の特徴																																																															
第13回	自由創作(3)	：	長編作品の書き方																																																															
第14回	自由創作(4)	：	推敲の方法																																																															
第15回	自由創作(5)	：	作品の相互評価、感想レポートの作成・提出																																																															
<p>〔学習上の留意点及び準備等〕</p> <p>この授業では個人作業をする人と他者に相談する人とが混在します。お互いへの配慮が求められます。相談することは大いに推奨しますが、静かに作業したい人の迷惑にならないようにしましょう。相談と私語とは違います。目に余る場合は注意した上、授業への参加を遠慮してもらうこともあります。</p> <p>なお、指定したテキストの購入については、授業開始時に説明します。</p>																																																																		
<p>〔成績評価方法と評価基準〕</p> <p>短編の創作及び自由創作における作品への評価 40%、3回の感想レポートの内容への評価 40%、毎回提出するリフレクションペーパーの状況・内容 20%。これらに授業への参加態度を加味して、総合的に評価します。</p>																																																																		

科目	種別	開講時期	授業形態	単位	担当者	テキスト(書名・著者・出版社等)
子どもと人権	教養科目	1年次 後期	講義	2	福原 英起	『子どもに貧困を押しつける国・日本』 山野良一 光文社新書 820円(＋税) 『ポケット六法 平成29年版』 1,800円(＋税) 随時プリント配付
<p>[授業の概要]</p> <p>「児童は、人として尊ばれる。……」。これは1951年に制定された「児童憲章」の一部であるが、半世紀以上経った日本の現状は、未だに子どもたちが安心して生活し、豊かに育ちあえる社会を具現化しているとは到底言い難い状況にある。このことは、OECDによる「子どもの貧困」に関する統計からも明らかである。</p> <p>この授業では、子どもを取り巻く国内外の人権問題を取り上げながら解説し、現状の理解を深めていく。さらに社会や大人の責務として、日本国憲法や子どもの権利条約が幸福追求権や子どもの最善の利益の確保の保障を要請している点を踏まえながら現代社会の問題状況を明確にし、将来を担う子どもの人権保障のあり方について考察していく。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>子どもを取り巻く現状について理解する。  子どもの問題に対する社会的取り組みについて理解する。  「子ども固有の権利」として子どもの人権を理解する。  子どもが安心して生活できる理想的な社会のあり方について考察する。</p>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション、子どもを巡る人権状況(1) いじめ</li> <li>子どもを巡る人権状況(2) 児童ポルノ</li> <li>子どもを巡る人権状況(3) 震災復興と環境</li> <li>子どもの権利条約と日本政府の取り組み(1) 子どもの権利条約批准20年と政府の取り組み</li> <li>子どもの権利条約と日本政府の取り組み(2) 権利条約の理念と政府、自治体の取り組み</li> <li>子どもを巡る諸問題(1) 健康</li> <li>子どもを巡る諸問題(2) 医療</li> <li>子どもを巡る諸問題(3) 家庭</li> <li>子どもを巡る諸問題(4) 福祉</li> <li>子どもを巡る諸問題(5) 司法</li> <li>子どもを巡る諸問題(6) 学校</li> <li>子どもの問題関連国内法(1) 子ども、子育て支援法</li> <li>子どもの問題関連国内法(2) いじめ防止対策推進法</li> <li>学生各自による研究発表、討論(1) 第1グループ</li> <li>学生各自による研究発表、討論(2) 第2グループ</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>講義の前後には必ずテキストを読み、問題点や疑問点を明確にする。  新聞に目を通し、講義と関係のある記事を読み、出来ればスクラップして感想を書いてみる。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>授業への参加態度、提出物、定期試験(筆記)等から総合的に判断する。</p>						

科目	種別	開講時期	授業形態	単位	担当者	テキスト(書名・著者・出版社等)
日本国憲法	教養科目	1年次 後期	講義	2	福原 英起	『プレスステップ憲法』駒村圭吾編 弘文堂 1,800円(+税) 『ポケット六法平成29年版』 有斐閣 1,800円(+税) 随時プリント配布
<p>〔授業の概要〕</p> <p>普段の日常生活のなかで、「人権」を意識しながら生活することはそんなにかもしれない。しかし、急に自分や自分の周りの大切な人の権利が、ある日突然、侵害される可能性を誰もが抱えている。とくに、将来、幼稚園教諭や保育士を目指す学生が携わることになる子どもは、自分の権利が侵害されることに気付くことも出来なければ、大人のように侵害された権利を回復させる手立てを講じることも出来ない。このような子どもの権利を守るのは、周囲の大人である保護者や幼稚園教諭、保育士なのであり、これらの職種に携わろうとする人間が「人権」に対して無関心であることは罪以外の何物でもない。つまり、人権を無視して保育や幼児教育は成り立たないのであり、人権を無視してこれらを論じること程、無意味なことはないのである。</p> <p>この授業では、基本的人権の尊重、国民主権、恒久平和主義等の憲法の3原則を基軸としながら、前半では基本的人権を、後半では統治機構と天皇制、さらに憲法改正について、なるべく人権と関連させながら説明を行っていく。</p>						
<p>〔授業科目の到達目標〕</p> <p>近代憲法から現代憲法への発展について理解する。 基本的人権の尊重とそれに関連する問題について理解する。 国民主権について理解する。 恒久平和主義について理解する。 統治機構について理解する。 憲法改正について理解する。</p>						
<p>〔授業の計画・内容〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、憲法とは</li> <li>2. 近代民主政治の成立</li> <li>3. 民主政治と立憲主義</li> <li>4. 権力分立と法治主義・法の支配、社会契約説</li> <li>5. 大日本帝国憲法と日本国憲法(天皇主権から国民主権へ)</li> <li>6. 日本国憲法の基本原理(憲法と国家との関係性)</li> <li>7. 象徴天皇制</li> <li>8. 恒久平和主義</li> <li>9. 基本的人権の尊重Ⅰ(幸福追求権、新しい人権、個人の人権の制限等)</li> <li>10. 基本的人権の尊重Ⅱ(法の下での平等)</li> <li>11. 基本的人権の尊重Ⅲ(自由権)</li> <li>12. 基本的人権の尊重Ⅳ(社会権)</li> <li>13. 統治機構Ⅰ(立法・行政・司法)</li> <li>14. 統治機構Ⅱ(立法・行政・司法)</li> <li>15. 統治機構Ⅲ(立法・行政・司法、憲法改正)</li> </ol>						
<p>〔学習上の留意点及び準備等〕</p> <p>講義の前後には必ずテキストを読み、問題点や疑問点を明確にする。 新聞に目を通し、講義と関係のある記事を読み、出来ればスクラップして感想を書いてみる。</p>						
<p>〔成績評価方法と評価基準〕</p> <p>授業への参加態度、小テスト、定期試験(筆記)等から総合的に判断する。</p>						



科 目	種 別	開講時期	授業形態	単 位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
自然科学概論	教養科目	1年次 後 期	講 義	2	井山 弘幸	プリント配布
<p>[授業の概要]</p> <p>科学とはどんな学問か。思考の方法としての科学を中心に現代社会のさまざまな問題や日常生活をとりまく自然現象を題材として考えてみる。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>自然科学のエピソードや現代科学のトピックスを通じて、「科学的に考えること」を理解すること。</p>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科学者とはどんな職業か。この世にあるさまざまな職業とどう違うか。</li> <li>2. 幽霊を科学的に研究できるか。</li> <li>3. 宗教と科学との違い。キリスト教や仏教の教義と科学理論とはどう違うか。</li> <li>4. UFO研究。宇宙人に関する科学的研究の歴史と信頼性について。</li> <li>5. 血液型性格診断は正しいか。あわせて、人間の性格とはどういうものかを考える。</li> <li>6. 予言と予測。科学者の予測と占師の予言とは本質的に違うものか。</li> <li>7. 論理的な思考と科学的思考との違い。世にあふれる詐欺を実例に。</li> <li>8. 奇跡は本当に起こるのか。科学法則との違いは？</li> <li>9. 医学はサイエンスか。これは幼児教育は科学か、という問題と似ているか？</li> <li>10. 笑いの原理と科学的発見の論理の類似性について。</li> <li>11. 旅することと科学すること。近代初期は科学イコール旅であった。</li> <li>12. モンスター問題。モンスターペアレントも奇形児もどちらもモンスター。</li> <li>13. 自我とは何か。精神科学の世界への導入。</li> <li>14. 恋愛を科学することは可能か。オスとメスの生物学から学ぶ。</li> <li>15. 科学とニセ科学とのちがいは何か。</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>講義の時間は私語をせずに静粛に聴講すること。話題になったことを自分なりに追求する姿勢をもつこと。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>聴講態度（私語の多い学生は大幅に減点します）と小レポート（数回あります）で50点。定期試験（筆記）で50点。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単 位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
音楽概論	教養科目	1年次 前 期	講 義	2	斎藤 竜夫	プリント配布
<p>[授業の概要]</p> <p>西洋音楽史の視点から、その歴史的時点での名曲を分析する。それによって音楽的感性を高めるための音楽の聴き方、楽しみ方、味わい方を研究する。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>分析的な音楽聴取の方法を獲得する。</p>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 中世とルネサンスの音楽</li> <li>3 バロックの音楽① 感情表出としてのバロック</li> <li>4 バロックの音楽② 和声的対位法の完成者、バッハ</li> <li>5 古典派の音楽① 形式原理について</li> <li>6 古典派の音楽② ソナタとシンフォニー</li> <li>7 ロマン派の音楽① ロマン派の表現</li> <li>8 ロマン派の音楽② 性格的小品について</li> <li>9 ロマン派の音楽③ 形式の拡大・発展</li> <li>10 現代の音楽① ワーグナー以降の音楽のあり方</li> <li>11 現代の音楽② モダニズムとポストモダニズム</li> <li>12 現代の音楽③ ポピュラー音楽の発展</li> <li>13 総合的分析① 形式分析について</li> <li>14 総合的分析② 美学的考察について</li> <li>15 まとめ</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>自分の好きな曲を分析的に聴き、なぜ好きなのか言語化してみること。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>レポートにより評価する。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
体育講義	教養科目	1年次 前 期	講 義	1	坂内 寿子	随時プリントを配布
<p>[授業の概要]</p> <p>健康な生活を確立し維持することは誰もが願う欲求である。現代の生活環境をみると物質面において便利で快適な生活を得ることができるようになった。反面、身体活動は減少し健康を支える体力を著しく低下させている。また、運動不足と飽食による栄養過剰は生活習慣病の増加、若年化現象をもたらしている。青年期は今後の健康生活を形成するうえで最も大切な時期であり、個々の健康観を確立することが重要となる。本授業では健康に関する正しい知識を学ぶとともに日常生活に反映させる知恵を養うことを目的とし、講義を中心にビデオ視聴や簡単な測定を取り入れ、授業を行う。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>人体の骨格、筋肉、内臓の名称について把握する。  健康とは何かについて考える。  体力の構成について理解する。  健康づくりの基本を理解する。  自ら健康の増進の方法を考え、実践できるようにする。</p>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、人体の構造について課題の説明</li> <li>2 人体の構造</li> <li>3 健康の定義、考え方</li> <li>4 体力の構成</li> <li>5 まとめ① (人体の構造・健康の定義・体力の構成)</li> <li>6 健康づくりの基本「私の一日の過ごし方の振りかえり」</li> <li>7 健康づくりと食生活、健康づくりと休養</li> <li>8 健康づくりと運動① (体力トレーニング・トレーニングの基本原則)</li> <li>9 健康づくりと運動② (運動処方)</li> <li>10 まとめ② (健康づくりと運動)</li> <li>11 アルコールと健康</li> <li>12 喫煙と健康・青年期の性・授業全般のまとめ</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>授業で配布するプリントは必ず目を通す。  レポート作成にあたり人体の名称に留意する。授業後の復習を行う。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>人体図(骨格、筋肉、内臓)のレポート20%、定期試験(筆記)80%。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
体育実技	教養科目	1年次 前 期	実 技	1	中島 孝子	なし
<p>[授業の概要]</p> <p>運動は健康で生き生きと生きていくために欠かせない大切な要素の一つである。何もかもが便利になり省エネ化された現代社会において、われわれはともすると運動不足になりがちである。運動不足は様々な弊害をもたらす。運動の生活化が今求められている所以であるが、生涯を通してスポーツに親しみ実践していけるかどうかは青年期の取り組みが大切である。この授業ではその第一歩として、基礎的な体力作り運動や、リズム運動、ボール運動などを通して運動実践能力を高める。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>集合・整列など基本的な集団行動が出来る 音に合わせてリズムカルに動ける ボール運動に親しみチームで協力し合ってゲームを楽しく行える</p>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. リズム運動①～音のリズムにしっかり乗る</li> <li>3. リズム運動②～正確なテンポが取れる</li> <li>4. リズム運動③～フレーズをしっかり正しく覚えて踊れる</li> <li>5. リズム運動④～隊形移動がスムーズに出来る</li> <li>6. リズム運動⑤～皆と協力して踊れる</li> <li>7. バスケットボール①～基本的な動き方が解る</li> <li>8. バスケットボール②～ゲーム (予選リーグ戦)</li> <li>9. バスケットボール③～ゲーム (決勝リーグ戦)</li> <li>10. バスケットボール④～ゲーム (順位の決定戦)</li> <li>11. バレーボール①～基本的な動き方が解る</li> <li>12. バレーボール②～ゲーム (予選リーグ戦)</li> <li>13. バレーボール③～ゲーム (決勝リーグ戦)</li> <li>14. バレーボール④～ゲーム (順位の決定戦)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>運動に適した身支度を整える。集合・整列をきちんと守る。仲間と協力して行動する。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>授業への意欲・態度・姿勢 100%</p>						

科目	種別	開講時期	授業形態	単位	担当者	テキスト(書名・著者・出版社等)																														
英語会話 (通年)	教養科目	2年次 通年	講義 演習	2	マッツ・ エングバリー	「SIDE by SIDE book 2」 Steven J.Molinsky / Bill Bliss 著 「Very Easy True Stories」 Sandra Heyer 著																														
<p>[授業の概要]</p> <p>保育の場で使う英会話を学びます。</p> <p>テキストは、外国の子供たちと日本の子供たちが共に学ぶ国際的な保育園を舞台に、一人の実習生の体験を通して、様々な語彙や会話を学べるようになっていきます。英語は今日、世界共通言語になりつつありますので、これらの会話を身に付けければ保育現場だけではなく、いつでも、どこでも活用できます。</p> <p>言語だけではなく、文化や習慣の違いにも目を向けます。</p> <p>英会話は「習うより慣れよ」です。授業では積極的に声を出して練習しましょう。</p> <p>英語の歌、幼児の手遊び唄、簡単なゲームなど生の英語に触れる機会を多くして、たのしく英語に親しんでいきます。</p>																																				
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>日常的な場面において英語でのコミュニケーションができるようになる。</p> <p>保育や幼児教育に関する語彙を増やす。</p>																																				
<p>[授業の計画・内容]</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 自己紹介、会話ゲーム、ペアワーク</td> <td>16. Chapter 5. 復習、会話ゲーム</td> </tr> <tr> <td>2. Chapter 1. 現在形、曜日・月の名前、未来形</td> <td>17. Chapter 6. 最上級</td> </tr> <tr> <td>3. Chapter 1. 過去形</td> <td>18. Chapter 6. 最上級</td> </tr> <tr> <td>4. Chapter 1. 復習、会話ゲーム</td> <td>19. Chapter 6. 復習、会話ゲーム</td> </tr> <tr> <td>5. Chapter 2. 食べ物・飲み物、～がある</td> <td>20. Chapter 7. 指示、方向、場所の名前</td> </tr> <tr> <td>6. Chapter 2. 比較級</td> <td>21. Chapter 7. 方向</td> </tr> <tr> <td>7. Chapter 2. 復習、会話ゲーム</td> <td>22. Chapter 7. ロールプレイ、カンパセーションゲーム</td> </tr> <tr> <td>8. Chapter 3. 単位</td> <td>23. Chapter 8. 職業、副詞</td> </tr> <tr> <td>9. Chapter 3. 丁寧語、レシピ</td> <td>24. Chapter 8. 副詞</td> </tr> <tr> <td>10. Chapter 3. 復習、会話ゲーム</td> <td>25. Chapter 8. 復習、会話ゲーム</td> </tr> <tr> <td>11. Chapter 4. 未来形、will～、動詞</td> <td>26. Chapter 9. 動詞、過去進行形</td> </tr> <tr> <td>12. Chapter 4. ～かもしれません</td> <td>27. Chapter 9. 再帰代名詞</td> </tr> <tr> <td>13. Chapter 4. 復習、会話ゲーム</td> <td>28. Chapter 9. 復習、会話ゲーム</td> </tr> <tr> <td>14. Chapter 5. 形容詞、比較級</td> <td>29. Chapter 10. 形容詞</td> </tr> <tr> <td>15. Chapter 5. 比較級</td> <td>30. Chapter 10. ～しなければならなかった、復習、会話ゲーム</td> </tr> </table>							1. 自己紹介、会話ゲーム、ペアワーク	16. Chapter 5. 復習、会話ゲーム	2. Chapter 1. 現在形、曜日・月の名前、未来形	17. Chapter 6. 最上級	3. Chapter 1. 過去形	18. Chapter 6. 最上級	4. Chapter 1. 復習、会話ゲーム	19. Chapter 6. 復習、会話ゲーム	5. Chapter 2. 食べ物・飲み物、～がある	20. Chapter 7. 指示、方向、場所の名前	6. Chapter 2. 比較級	21. Chapter 7. 方向	7. Chapter 2. 復習、会話ゲーム	22. Chapter 7. ロールプレイ、カンパセーションゲーム	8. Chapter 3. 単位	23. Chapter 8. 職業、副詞	9. Chapter 3. 丁寧語、レシピ	24. Chapter 8. 副詞	10. Chapter 3. 復習、会話ゲーム	25. Chapter 8. 復習、会話ゲーム	11. Chapter 4. 未来形、will～、動詞	26. Chapter 9. 動詞、過去進行形	12. Chapter 4. ～かもしれません	27. Chapter 9. 再帰代名詞	13. Chapter 4. 復習、会話ゲーム	28. Chapter 9. 復習、会話ゲーム	14. Chapter 5. 形容詞、比較級	29. Chapter 10. 形容詞	15. Chapter 5. 比較級	30. Chapter 10. ～しなければならなかった、復習、会話ゲーム
1. 自己紹介、会話ゲーム、ペアワーク	16. Chapter 5. 復習、会話ゲーム																																			
2. Chapter 1. 現在形、曜日・月の名前、未来形	17. Chapter 6. 最上級																																			
3. Chapter 1. 過去形	18. Chapter 6. 最上級																																			
4. Chapter 1. 復習、会話ゲーム	19. Chapter 6. 復習、会話ゲーム																																			
5. Chapter 2. 食べ物・飲み物、～がある	20. Chapter 7. 指示、方向、場所の名前																																			
6. Chapter 2. 比較級	21. Chapter 7. 方向																																			
7. Chapter 2. 復習、会話ゲーム	22. Chapter 7. ロールプレイ、カンパセーションゲーム																																			
8. Chapter 3. 単位	23. Chapter 8. 職業、副詞																																			
9. Chapter 3. 丁寧語、レシピ	24. Chapter 8. 副詞																																			
10. Chapter 3. 復習、会話ゲーム	25. Chapter 8. 復習、会話ゲーム																																			
11. Chapter 4. 未来形、will～、動詞	26. Chapter 9. 動詞、過去進行形																																			
12. Chapter 4. ～かもしれません	27. Chapter 9. 再帰代名詞																																			
13. Chapter 4. 復習、会話ゲーム	28. Chapter 9. 復習、会話ゲーム																																			
14. Chapter 5. 形容詞、比較級	29. Chapter 10. 形容詞																																			
15. Chapter 5. 比較級	30. Chapter 10. ～しなければならなかった、復習、会話ゲーム																																			
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>テキストについているCDを繰り返し聞き予習、復習をする。</p> <p>授業中のペアワークなどのアクティビティーに積極的に参加する。</p>																																				
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>前期、後期のテスト60%、提出物20%、音読テスト20%</p>																																				

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)		
中国語会話	教養科目	2年次 通 年	演 習	2	梅田 純子	『アクティブラーニング』 陳淑海・張国璐、朝日出版社		
<p>[授業の概要]</p> <p>中国語の要である四声とピンインの発音方法を分かりやすく説明し、数多くの練習問題を通して、完全にマスターする。その上で、基礎的文法事項をしっかり身につけ、簡単な日常会話ができるようにする。</p>								
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>四声が正しく言える。ピンイン（発音記号）が読める。基礎的文法事項を身につける。簡単な会話ができる。</p>								
<p>[授業の計画・内容]</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 中国語について  2. 発音①（四声／母音）  3. 発音②（複合母音）  4. 発音③（子音）  5. 発音④（反り舌音、鼻音）  6. 発音のまとめ  7. 人称代名詞  8. 名前の言い方  9. 「是」の文  10. 指示代名詞  11. ～的／也  12. 動詞述語文  13. 疑問詞疑問文  14. 中国語の歌  15. まとめ </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 16. 数詞  17. 年齢  18. 量詞  19. 動詞「有」  20. 形容詞の文  21. 形容詞にともなう副詞  22. 動詞「在」  23. 方向位置を表すことば  24. 語気助詞  25. 値段の言い方  26. 数の聞き方  27. 年月日  28. 曜日  29. 中国語の歌  30. まとめ </td> </tr> </table>							1. 中国語について 2. 発音①（四声／母音） 3. 発音②（複合母音） 4. 発音③（子音） 5. 発音④（反り舌音、鼻音） 6. 発音のまとめ 7. 人称代名詞 8. 名前の言い方 9. 「是」の文 10. 指示代名詞 11. ～的／也 12. 動詞述語文 13. 疑問詞疑問文 14. 中国語の歌 15. まとめ	16. 数詞 17. 年齢 18. 量詞 19. 動詞「有」 20. 形容詞の文 21. 形容詞にともなう副詞 22. 動詞「在」 23. 方向位置を表すことば 24. 語気助詞 25. 値段の言い方 26. 数の聞き方 27. 年月日 28. 曜日 29. 中国語の歌 30. まとめ
1. 中国語について 2. 発音①（四声／母音） 3. 発音②（複合母音） 4. 発音③（子音） 5. 発音④（反り舌音、鼻音） 6. 発音のまとめ 7. 人称代名詞 8. 名前の言い方 9. 「是」の文 10. 指示代名詞 11. ～的／也 12. 動詞述語文 13. 疑問詞疑問文 14. 中国語の歌 15. まとめ	16. 数詞 17. 年齢 18. 量詞 19. 動詞「有」 20. 形容詞の文 21. 形容詞にともなう副詞 22. 動詞「在」 23. 方向位置を表すことば 24. 語気助詞 25. 値段の言い方 26. 数の聞き方 27. 年月日 28. 曜日 29. 中国語の歌 30. まとめ							
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>積極的に授業に参加することを望む。</p>								
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>学期末試験、課題発表、授業中の取り組み姿勢を総合的に評価する。尚、学期末試験実施時期は授業開始後に周知する。</p>								

## 専門教育科目

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
社会福祉	専門科目	1年次前期	講義	2	福原 英起	新・プリマーズ/保育/福祉『社会福祉[第2版]』 石田慎二/山縣文治編著 ミネルヴァ書房 1,800円+税 社会福祉小六法2017[平成29年版] ミネルヴァ書房 1,600円+税
<p>〔授業の概要〕</p> <p>現在、我が国は、社会福祉の基礎構造改革が進められている。この基本理念は、「個人が人としての尊厳をもって、家庭や地域の中で、障害の有無や年齢にかかわらず、その人らしい安心のある生活が送れるよう自立を支援すること」とされ、平成12年にその根幹となる「社会福祉法」が成立し、併せて介護保険法が施行されている。さらに、平成15年4月からは障害者福祉で「支援費制度」がスタートし、平成17年には「障害者自立支援法」が、平成25年4月からは障害者自立支援法を改正した「障害者総合支援法」が施行されることとなった。</p> <p>一方で、高齢化と併せて未曾有の少子化が進み、平成6年のエンゼルプラン以降、保育サービス等の充実を志向する少子化対策が講じられてきたが、平成22年の子ども・子育てビジョン以降は、少子化対策から子育て支援へと政策がシフトして現在に至っている。</p> <p>この講義では、福祉の動向を見据えながら、保育士を目指す学生にとって有益な講義を目指すことに終始するのではなく、一人ひとりがより豊かな生活を送るとはどういうことか、そして、それを実現する上での社会全体の目指すべき方向性を、より広い視野から考察していきたい。</p>						
<p>〔授業科目の到達目標〕</p> <p>社会福祉の理念・構造・価値と倫理を理解する。  社会福祉を取り巻く環境を理解する。  社会福祉の歴史を理解する。  社会福祉の仕組みを理解する。  社会福祉を構成する各分野を理解する。  社会福祉の担い手について理解する。</p>						
<p>〔授業の計画・内容〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、社会福祉の考え方</li> <li>2. 社会福祉を取り巻く環境</li> <li>3. 社会福祉の歴史</li> <li>4. 社会福祉の仕組み</li> <li>5. 社会福祉サービスの利用の仕組み</li> <li>6. 社会福祉の機関と施設</li> <li>7. 社会保障</li> <li>8. 低所得者福祉</li> <li>9. 児童家庭福祉</li> <li>10. 高齢者福祉</li> <li>11. 障害者福祉</li> <li>12. 地域福祉</li> <li>13. 利用者保護制度</li> <li>14. 社会福祉援助技術</li> <li>15. 社会福祉の担い手</li> </ol>						
<p>〔学習上の留意点及び準備等〕</p> <p>講義の前には必ずテキストを読み、問題点や疑問点を明確にする。  講義で触れた法律の条文に当たる。  新聞に目を通し、講義と関係のある記事を読み、出来ればスクラップして感想を書いてみる。</p>						
<p>〔成績評価方法と評価基準〕</p> <p>授業への参加態度、提出物、数回の小テスト等から総合的に判断する。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単 位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
相談援助	専門科目	2年次前期	演習	1	笠井友治郎 丸田 秋男	「演習・保育と相談援助」(第2版) 監修 前田 敏雄 (みらい 2,000円+税)
<p>[授業の概要]</p> <p>相談援助の知識と技術を身につけることにより、福祉専門職の自覚を形成し、保育者として必要なソーシャルワークを習得する。また、現在の社会状況を理解、考察し、問題意識を常にもつ姿勢を忘れない保育士を目指す。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活課題の種類と背景を考察する</li> <li>・援助に必要な身近な社会資源を知る</li> <li>・福祉の専門性に基づく事例の対応方法を学ぶ</li> <li>・福祉専門用語を理解する</li> </ul>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 概要説明</li> <li>2 保育と相談援助</li> <li>3 相談援助とは何か</li> <li>4 相談援助の過程と連携</li> <li>5 相談援助者になるために (自己覚知)</li> <li>6 相談援助者になるために (他者理解)</li> <li>7 基本的態度、コミュニケーションスキル</li> <li>8 非言語的コミュニケーションの理解</li> <li>9 相談援助者になるために (記録)</li> <li>10 生活課題の把握</li> <li>11 相談援助の過程 (インテークとアセスメント)</li> <li>12 相談援助の過程 (援助計画)</li> <li>13 相談援助の過程 (実施、評価)</li> <li>14 意見交換</li> <li>15 まとめ</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・随時プリントを配布し理解を補足する。</li> <li>・学生の意見交換を通じて理解を深める。</li> </ul>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>定期試験 (レポート提出) と毎回の「授業の振り返り」を併せて評価する。</p>						



科 目	種 別	開講時期	授業形態	単 位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
児童家庭福祉	専門科目	1年次 後 期	講 義	2	植木 信一	植木信一 「新保育ライブラリ児童家庭福祉(新版)」 北大路書房
<p>[授業の概要]</p> <p>最新の児童家庭福祉の動向をより正確に把握しながらも、子どもの権利保障や子どもの最善の利益の視点をとおして、より有効な児童家庭福祉のあり方について学ぶ。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>専門職者として必要な制度や社会資源の理解はもとより、保育士が、児童家庭福祉を現場や地域で具現化する主体であるという自覚を促すことを目的とする。</p>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童家庭福祉の枠組みと概要</li> <li>2. 児童家庭福祉の基本的視点の理解</li> <li>3. 児童家庭福祉の専門職者と資格制度</li> <li>4. 児童家庭福祉の制度と仕組み</li> <li>5. 児童家庭福祉の実際①</li> <li>6. 児童家庭福祉の実際②</li> <li>7. 児童家庭福祉の方法</li> <li>8. 子どもの権利保障</li> <li>9. 保育に関する動向と福祉サービス</li> <li>10. 児童健全育成に関する動向と福祉サービス</li> <li>11. 障がいのある子どもの福祉に関する動向と福祉サービス</li> <li>12. 社会的養護</li> <li>13. 児童虐待に関する動向と対策</li> <li>14. 子育て支援施策の動向</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>必ずテキストを持参すること。授業を受けながらノートをとること。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>論述試験によって評価する。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
保育原理	専門教育	1年次前期	講 義	2	小川 崇	細井房明他編 『保育の理論と実践』 学術図書出版社
<p>[授業の概要]</p> <p>現代社会において、乳幼児が成長していくためには、保育という営み、それも専門職としての保育ということが不可欠となってきている。それでは、専門職の保育者をめざそうとする時、保育というものをどのようにとらえればよいのだろうか。本講義では、専門職としての保育者に必要と考えられる、保育についての基本的なとらえ方、諸原理、また保育の歴史や思想などについて学んでいく。そのことによって、受講者自身が自分の言葉で保育について考え、語れるようになることをめざしたいと思う。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育を様々な側面から理解する。</li> <li>・保育についての自分なりの見方（保育観）を持てるようにする。</li> </ul>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育とはどのような営みか</li> <li>2. 保育はどのように行われてきたか</li> <li>3. 保育はどのように考えられてきたのか</li> <li>4. 保育はどこで行われているか① 保育の場と保育の方法①</li> <li>5.                   "                   ② 保育の場と保育の方法②</li> <li>6. 保育者の求められるものは何か 保育者の専門性について考える①</li> <li>7.                   "                   保育者の専門性について考える②</li> <li>8. 子どもの成長発達と子ども理解①</li> <li>9. 子どもの成長発達と子ども理解②</li> <li>10. 子育て支援はどのように行われているか</li> <li>11. 児童虐待について考える</li> <li>12. 保育に関わる制度の理解①</li> <li>13. 保育に関わる制度の理解② 幼保一元化と認定子ども園</li> <li>14. 保育の現状と課題</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>中間及び期末レポートを課す（テーマ等については授業中に支持する）。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>上記のテキストの他にも随時資料を配付する。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
社会的養護 I	専門科目	1 年次 前 期	講 義	2	福原 英起	新・プリマーズ/保育/福祉『社会的養護[第2版]』 小池由佳/山縣文治編著 ミネルヴァ書房 1,800円+税 社会福祉小六法2017[平成29年版] ミネルヴァ書房 1,600円+税
<p>〔授業の概要〕</p> <p>平成23年度に、全国206カ所の児童相談所で受け付けた虐待の相談処理件数は59,862件(速報値)に上り、統計当初の数値である平成2年の1,101件の58倍以上となっている。本来、大人を始めとする社会は、子どもを安全・安心に、かつ、よりよく育てる責務を負っている。しかし、子どもの置かれている現実には、この数字からも推測できるように、子どもの権利を保障しようとしている日本国憲法や児童福祉法、子どもの権利条件等の子ども関連諸法令の理念からは、かなりかけ離れた状況を強いられている場合が多い。</p> <p>従来の社会的養護は、不幸な状況下におかれている子どもを、心身ともに健やかに人間らしく生活できる養育環境を整備し、家庭の代替的機能によって温かく子どもを養育することを目的としていた。現在では、保育に欠ける子どもや障害等で療育の必要な子どもへの支援等、児童福祉施設等で養育される子どもも含めて社会的養護と呼び、これらの支援の中心的な役割を担っているのが保育士である。</p> <p>この講義では、社会的養護の支援を種別毎に概観しながら、保育の質の向上や保育士の専門性の向上等、保育現場での課題等について考察を深めていく。</p>						
<p>〔授業科目の到達目標〕</p> <p>社会的養護の定義・基本理念を理解する。 社会的養護を取り巻く環境を理解する。 子どもの権利を理解する。 社会的養護の体系・制度を理解する。 ソーシャルワークのすすめ方について理解する。</p>						
<p>〔授業の計画・内容〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、社会的養護とは</li> <li>2. 現代社会における子どもと家庭</li> <li>3. 子どもの権利</li> <li>4. 社会的養護の歴史</li> <li>5. 社会的養護の体系：家庭・施設・里親</li> <li>6. 社会的養護の制度</li> <li>7. 施設養護の特質</li> <li>8. 施設養護の基本原理</li> <li>9. 施設養護の実際1：日常生活および自立支援</li> <li>10. 施設養護の実際2：治療的・支援的援助</li> <li>11. 施設養護の実際3：親子・地域との関係調整</li> <li>12. 社会的養護とソーシャルワーク</li> <li>13. 児童福祉施設の運営管理</li> <li>14. 児童家庭福祉の援助者としての資質・倫理</li> <li>15. 社会的養護の方向性</li> </ol>						
<p>〔学習上の留意点及び準備等〕</p> <p>講義の前後には必ずテキストを読み、問題点や疑問点を明確にする。 講義で触れた法律の条文に当たる。 新聞に目を通し、講義と関係のある記事を読み、出来ればスクラップして感想を書いてみる。</p>						
<p>〔成績評価方法と評価基準〕</p> <p>授業への参加態度、提出物、数回の小テスト等から総合的に判断する。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
教育原理	専門教育	1年次 後 期	講 義	2	小川 崇	特に指定しない。 授業時に資料を配布する。
<p>[授業の概要]</p> <p>「教育」といった時に、何を最初に思い浮かべるだろうか。多くの人は、学校教育（あるいはそれと関わりのある事柄）を思い浮かべるのではないだろうか。なぜなら、学校教育という営みは、わたしたちの日常生活になくはならないものとして存在し、またそのように考えられているからである。しかし、その一方で学校教育に対する批判はいつの時代にも存在し、時に学校のあり方に影響を与えている。本講義では、教育という営みを、人間形成・自己形成を支える営みととらえた上で、主に学校教育のあり方について考えてみたい。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育という営みを学習との関わりで理解する。</li> <li>・様々な教育問題について考え、自分なりの考えを文章化する。</li> </ul>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 教育とはどのような営みなのか</li> <li>3. 学校教育① 義務教育は必要か？</li> <li>4. 学校教育② オルタナティブスクール①ホームスクーリング</li> <li>5. 学校教育③ オルタナティブスクール②チャータースクール</li> <li>6. 学校教育④ オルタナティブスクール③フリースクール</li> <li>7. 学校教育⑤ 学校教育はどのような機能を果たしているのか</li> <li>8. まとめ①</li> <li>9. メディアと教育① メディアが自己形成について与える影響を考えてみる</li> <li>10. メディアと教育② CMと教育の類似性について考えてみる①</li> <li>11. メディアと教育③ CMと教育の類似性について考えてみる②</li> <li>12. “歌”と現代社会と人間形成① 戦後教育の変化を“歌”を通して考える ～70年代</li> <li>13. “歌”と現代社会と人間形成② 80年代</li> <li>14. “歌”と現代社会と人間形成③ 90年代以降</li> <li>15. まとめ②</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>レポートにより評価する。テーマ等については授業中に指示する。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単 位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
保育者論	専門教育	2年次 後 期	講 義	2	久保田真規子	保育者論 (株)みらい 第2版 秋田喜代美 編集代表
<p>[授業の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者の専門性への基本的理解と、自分が目指す保育者像を描く。</li> <li>2. プリント・事例・新聞記事などの関連資料による講義を行い、内容に関するVTRを視聴し、課題を見つめ、共有化していく。</li> </ol>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の場や保育者に関する専門的知識を修得し、専門的資質を身につける。</li> <li>2. 子どもの育ち、親の状況、社会の実態を知り、保育者に求められる基本的課題を理解する。</li> <li>3. さまざまな保育実践や保育者の姿に関心を広げ、自らの保育(保育者)像を展望する。</li> </ol>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、「保育者になる」ということ</li> <li>2. 変化する社会と子ども・子育て支援新制度</li> <li>3. 幼稚園教育要領改訂・保育所保育指針改定の方向性</li> <li>4. 保育者の仕事、役割</li> <li>5. 保育者に求められる資質 (1) 子どもの思い、育ちを理解すること</li> <li>6. 保育者に求められる資質 (2) 保育者自身が、心や体を動かすこと</li> <li>7. 保育者に求められる資質 (3) 文化、自然、歴史への広い視野をもつこと</li> <li>8. 社会の変化と保育者の課題 (1) 保育者と家庭との信頼関係をつくるとは</li> <li>9. 社会の変化と保育者の課題 (2) 職員集団の一員としての自分</li> <li>10. 社会の変化と保育者の課題 (3) 学び成長し続ける保育者をめざす</li> <li>11. 保育者の専門性を考える (1) 保育士の置かれた制度上の位置への理解</li> <li>12. 保育者の専門性を考える (2) 職務内容、研修、権利への基本的理解</li> <li>13. さまざまな保育実践と自分がめざす保育(保育者) (1)</li> <li>14. さまざまな保育実践と自分がめざす保育(保育者) (2)</li> <li>15. 保育者へのメッセージ(まとめ)</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>講義形式であるが、課題、演習の要素も含むので主体的態度で臨んで下さい。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>授業への取り組み姿勢、課題やノートの記入状況、定期試験(筆記)で総合的に判断します。 レポート課題に関しては、自分自身の言葉で記すこと。 グループディスカッション、授業感想カード、レポート課題やノートの記入状況も評価対象とします。</p>						

科目	種別	開講時期	授業形態	単位	担当者	テキスト(書名・著者・出版社等)
保育の心理学 I	専門科目	1年次後期	講義	2	佐々木宏之	乳幼児発達心理学 繁多進監修 福村出版
<p>〔授業の概要〕</p> <p>人間の心理は年を取るとともにさまざまな変化が生じる。なかでも乳幼児期は、人生の中でもっとも変化の著しい時期であり、その後の発達の基礎が築かれる時期でもある。この講義では、心理学の講義で得た知識を下敷きに、様々な観点から乳幼児の心理の特徴について学ぶ。</p>						
<p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。</li> <li>・ 発達段階ごとの子どもの発達を理解する。</li> <li>・ 心理学で学んだ内容と照らし合わせて子どもの発達を理解する。</li> </ul>						
<p>〔授業の計画・内容〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達のしくみ …………… 発達心理学とは</li> <li>2. 発達の様相 …………… 年齢ごとの発達の様子</li> <li>3. 自分をとりまく世界の認識1 …………… 認知の発達</li> <li>4. 自分をとりまく世界の認識2 …………… 思考の発達</li> <li>5. 自分をとりまく人々とのかかわり …… 愛着関係の発達</li> <li>6. 自分自身を知る …………… 自己の発達</li> <li>7. 豊かな内的世界1 …………… 乳児期の情緒発達</li> <li>8. 豊かな内的世界2 …………… 幼児期の情緒発達</li> <li>9. ことばとコミュニケーションの発達</li> <li>10. 遊びの発達と友だち関係</li> <li>11. 社会的認知と社会的行動の発達</li> <li>12. 乳幼児保育と発達</li> <li>13. さまざまな発達障害</li> <li>14. 子どもの問題行動</li> <li>15. まとめ</li> </ol>						
<p>〔学習上の留意点及び準備等〕</p> <p>実習等での体験と結びつけながら学習すること。</p>						
<p>〔成績評価方法と評価基準〕</p> <p>定期試験（筆記）を実施する。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
保育の心理学Ⅱ	専門科目	2年次前期	演習	1	笠井友治郎	プリント配布
<p>[授業の概要]</p> <p>子どもの心身の発達や学習について、事例を通して具体的に理解を深めると共に、子どもの発達援助、家庭との連携、保護者の相談支援のあり方等について実践的に学ぶ。保育者として実践の中で状況を多面的に理解する視点を持ち、積極的に把握する捉え方を学習する。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める</li> <li>・子どもの経験や学習の過程を内面からも理解する</li> <li>・保育における発達援助、幼児理解を学ぶ</li> </ul>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 概要説明</li> <li>2 保育実践に役立つ心理学の基礎 行動の原理</li> <li>3 保育実践に役立つ心理学の基礎 発達</li> <li>4 保育実践に役立つ心理学の基礎 学習</li> <li>5 保育実践に役立つ心理学の基礎 適応</li> <li>6 保育実践に役立つ心理学の基礎 性格・評価</li> <li>7 子どもの理解と発達</li> <li>8 子どもの理解（概念的理解と個別的理解）</li> <li>9 子どもの観察のあり方と記録</li> <li>10 子どもの内なる世界の理解</li> <li>11 保育者の理解の枠組み</li> <li>12 保育とカウンセリングマイルド</li> <li>13 子育て相談のあり方</li> <li>14 意見交換・発表</li> <li>15 まとめ</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・随時プリントを配布し理解を補足する。</li> <li>・学生の意見交換を通じて理解を深める。</li> </ul>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>定期試験（レポート提出）と毎回の「授業の振り返り」を併せて評価する。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)																																																												
子どもの保健 I	専門教育	1年次 通 年	講 義	4	岡田かほる	子どもの保健 巷野悟郎編集 診断と治療社・2,205円																																																												
[授業の概要]																																																																		
<p>子どもは健康なからだと健全なこころを持って発育していかなければならない。その始まりであるより健全な誕生には、母性の健康が関与していること。健全な発育・発達を支援し、健康を増進する積極的な働きかけが必要であること。発育や発達を阻害する恐れのある疾病、事故、生活環境等の発生状況、成り立ちを明らかにし、予防対策を講じなければならない。</p> <p>このような考えを基に、保育のパートナーとしての知識を習得し、現場で役立つように学習させたい。</p>																																																																		
[授業科目の到達目標]																																																																		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。</li> <li>2 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達について理解する。</li> <li>3 子どもの疾病とその予防法について理解する。</li> <li>4 子どもの精神保健とその課題について理解する。</li> <li>5 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す環境について理解する。</li> <li>6 現在社会における心の問題や地域保健活動等について理解する。</li> </ol>																																																																		
[授業の計画・内容]																																																																		
<table border="0"> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>子どもの健康と保健の意義</td> <td>16</td> <td>母子保健の現状</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>子どもの発育・発達と保健</td> <td>17</td> <td>母子保健行政</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>身体発育と保健</td> <td>18</td> <td>新生児</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>生理機能の発達と保健 (1) ・生理機能とは、感覚器の発達</td> <td>19</td> <td>健康と病気、異常 (1) ・健康の概念、子どもの病気の特徴</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>生理機能の発達と保健 (2) ・排泄機能、自律神経の発達</td> <td>20</td> <td>健康と病気、異常 (2) ・免疫、アレルギー、むし歯</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>運動機能の発達と保健</td> <td>21</td> <td>子どもの事故の発生と種類、事故防止</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>精神機能の発達と保健 (1) ・言語、情緒、社会性の発達</td> <td>22</td> <td>感染症と予防接種 (1) ・感染症とは、感染症に関する法律</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>精神機能の発達と保健 (2) ・精神発達の評価</td> <td>23</td> <td>感染症と予防接種 (2) ・予防接種</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>子どもの食事 (1) ・消化、吸収、腸内細菌</td> <td>24</td> <td>乳幼児期の病気 (1) ・ウイルス感染症</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>子どもの食事 (2) ・母乳、離乳の進め方、幼児食</td> <td>25</td> <td>乳幼児期の病気 (2) ・細菌感染症・食中毒</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>子どもの生活環境 (1) ・保育情報、生活リズム、環境への適応</td> <td>26</td> <td>乳幼児期の病気 (3) ・アレルギー、消化器、呼吸器の病気</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>子どもの生活環境 (2) ・食事、排泄、睡眠、入浴、衛生</td> <td>27</td> <td>乳幼児期の病気 (4) ・循環器、血液、泌尿器、代謝の病気</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>子どもの精神保健 (1) ・アタッチメント、危険因子、発達障害</td> <td>28</td> <td>乳幼児期の病気 (5) ・皮膚、臍、運動器、眼、耳、鼻の病気</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>子どもの精神保健 (2) ・子どものこころ、虐待</td> <td>29</td> <td>乳幼児期の病気 (6) ・こころ、精神・神経系の病気</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>環境 (1) 自然、居住環境、環境汚染</td> <td>30</td> <td>乳幼児期の病気 (7) ・悪性腫瘍、その他の疾患</td> </tr> </tbody> </table>							1	子どもの健康と保健の意義	16	母子保健の現状	2	子どもの発育・発達と保健	17	母子保健行政	3	身体発育と保健	18	新生児	4	生理機能の発達と保健 (1) ・生理機能とは、感覚器の発達	19	健康と病気、異常 (1) ・健康の概念、子どもの病気の特徴	5	生理機能の発達と保健 (2) ・排泄機能、自律神経の発達	20	健康と病気、異常 (2) ・免疫、アレルギー、むし歯	6	運動機能の発達と保健	21	子どもの事故の発生と種類、事故防止	7	精神機能の発達と保健 (1) ・言語、情緒、社会性の発達	22	感染症と予防接種 (1) ・感染症とは、感染症に関する法律	8	精神機能の発達と保健 (2) ・精神発達の評価	23	感染症と予防接種 (2) ・予防接種	9	子どもの食事 (1) ・消化、吸収、腸内細菌	24	乳幼児期の病気 (1) ・ウイルス感染症	10	子どもの食事 (2) ・母乳、離乳の進め方、幼児食	25	乳幼児期の病気 (2) ・細菌感染症・食中毒	11	子どもの生活環境 (1) ・保育情報、生活リズム、環境への適応	26	乳幼児期の病気 (3) ・アレルギー、消化器、呼吸器の病気	12	子どもの生活環境 (2) ・食事、排泄、睡眠、入浴、衛生	27	乳幼児期の病気 (4) ・循環器、血液、泌尿器、代謝の病気	13	子どもの精神保健 (1) ・アタッチメント、危険因子、発達障害	28	乳幼児期の病気 (5) ・皮膚、臍、運動器、眼、耳、鼻の病気	14	子どもの精神保健 (2) ・子どものこころ、虐待	29	乳幼児期の病気 (6) ・こころ、精神・神経系の病気	15	環境 (1) 自然、居住環境、環境汚染	30	乳幼児期の病気 (7) ・悪性腫瘍、その他の疾患
1	子どもの健康と保健の意義	16	母子保健の現状																																																															
2	子どもの発育・発達と保健	17	母子保健行政																																																															
3	身体発育と保健	18	新生児																																																															
4	生理機能の発達と保健 (1) ・生理機能とは、感覚器の発達	19	健康と病気、異常 (1) ・健康の概念、子どもの病気の特徴																																																															
5	生理機能の発達と保健 (2) ・排泄機能、自律神経の発達	20	健康と病気、異常 (2) ・免疫、アレルギー、むし歯																																																															
6	運動機能の発達と保健	21	子どもの事故の発生と種類、事故防止																																																															
7	精神機能の発達と保健 (1) ・言語、情緒、社会性の発達	22	感染症と予防接種 (1) ・感染症とは、感染症に関する法律																																																															
8	精神機能の発達と保健 (2) ・精神発達の評価	23	感染症と予防接種 (2) ・予防接種																																																															
9	子どもの食事 (1) ・消化、吸収、腸内細菌	24	乳幼児期の病気 (1) ・ウイルス感染症																																																															
10	子どもの食事 (2) ・母乳、離乳の進め方、幼児食	25	乳幼児期の病気 (2) ・細菌感染症・食中毒																																																															
11	子どもの生活環境 (1) ・保育情報、生活リズム、環境への適応	26	乳幼児期の病気 (3) ・アレルギー、消化器、呼吸器の病気																																																															
12	子どもの生活環境 (2) ・食事、排泄、睡眠、入浴、衛生	27	乳幼児期の病気 (4) ・循環器、血液、泌尿器、代謝の病気																																																															
13	子どもの精神保健 (1) ・アタッチメント、危険因子、発達障害	28	乳幼児期の病気 (5) ・皮膚、臍、運動器、眼、耳、鼻の病気																																																															
14	子どもの精神保健 (2) ・子どものこころ、虐待	29	乳幼児期の病気 (6) ・こころ、精神・神経系の病気																																																															
15	環境 (1) 自然、居住環境、環境汚染	30	乳幼児期の病気 (7) ・悪性腫瘍、その他の疾患																																																															
[学習上の留意点及び準備等]																																																																		
<p>限られた時間で多くのことを学ぶために、前もって予習をしておくことが望ましい。 復習などは配布プリントを活用する。</p>																																																																		
[成績評価方法と評価基準]																																																																		
<p>聴講態度、定期試験で評価する。</p>																																																																		



科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
子どもの保健Ⅱ	専門教育	2年次前期	演習	1	岡田かほる	子どもの保健演習ガイド 高内正子 編著 建帛社・2,205円
<p>[授業の概要]</p> <p>子どもの保健Ⅰ（1年次）で学んだことに基づき、乳幼児の健全な発育・発達の支援と、心身活動の中で生じる事故や異常な状態に対する適切な手当や処置ができるように、理論に基づいた実践的技術を理解する。さらに子どもの心身の健康増進や安全を確保するための施設や地域社会の取り組みについても理解する。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの健康及び安全に係る保健活動について学ぶ。</li> <li>2 子どもの異常症状への対応について学ぶ。</li> <li>3 救急時の対応について学ぶ。</li> <li>4 保育における環境及び衛生管理並び安全管理について理解する。</li> <li>5 施設における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。</li> </ol>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育と保健計画</li> <li>2 子どもの発育援助と保健活動</li> <li>3 乳幼児の身体計測と評価、生理機能の測定</li> <li>4 乳幼児の身体計測の実際（実習）</li> <li>5 乳幼児の精神機能の発達評価</li> <li>6 乳幼児の運動機能の発達評価</li> <li>7 乳幼児の歯の健康</li> <li>8 乳幼児の身体の清潔</li> <li>9 乳幼児の異常症状と手当て（1）発熱、咳、嘔吐、吐しゃ物の処理</li> <li>10 乳幼児の異常症状と手当て（2）腹痛、下痢、けいれん、発疹、薬の使い方、罨法</li> <li>11 乳幼児の事故と応急手当て（1）すり傷、切り傷、刺し傷、打撲、火傷</li> <li>12 乳幼児の事故と応急手当て（2）鼻出血、熱中症、誤飲</li> <li>13 心肺蘇生法</li> <li>14 保育における環境衛生（保育室の環境衛生、施設設備の衛生）</li> <li>15 集団保育と保健対策（集団保育と安全、地域保健活動）</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>各自、子どもの保健Ⅰの復習はしておくこと。 授業中に演習、デモストレーションを行うので、協力的態度を希望する。 配布プリントを活用すること。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>聴講態度、定期試験で評価する。</p>						
<p>[参考文献]</p> <p>保育所における感染症ガイドライン（厚生労働省）</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単 位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
子どもの食と栄養	専門教育	2年次 通 年	演 習	2	内藤 照美	「子どもの食と栄養」 第5版 健康と食べることの基本 2,400円 高野陽 高橋種昭 医歯薬出版(株)
[授業の概要]						
<p>子どもの栄養は食生活や食習慣を形成し、生涯の健康の基礎となる。</p> <p>健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。</p> <p>食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化との関わりの中で理解する。</p> <p>保育所の給食献立作成を実施し、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。</p>						
[授業科目の到達目標]						
<p>栄養、食生活の基本について理解する</p> <p>子どもの発達段階に応じた栄養学の意義と食生活の果たす役割を理解する</p> <p>食育が重要視されている現代の子どもの食の状況と課題について理解する</p> <p>実習では保育現場で役立つ給食についての基本知識と技術を習得する</p>						
[授業の計画・内容]						
<p>1 子どもの心身の健康と食生活 子どもの食生活の現状と課題</p> <p>2 子どもの発育・発達と食生活 食べる機能・消化吸収機能</p> <p>3 栄養に関する基本的知識 栄養の意味と栄養素の体内での機能</p> <p>4 糖質（種類、機能、子どもの体内での役割）</p> <p>5 脂質                    //</p> <p>6 たんぱく質           //</p> <p>7 無機質                //</p> <p>8 ビタミン             //</p> <p>9 エネルギー代謝   食事摂取基準</p> <p>10 乳児期の食生活   乳汁栄養</p> <p>11 離乳の意義とその実践</p> <p>12 幼児期の食生活</p> <p>13 食品衛生（家庭及び施設での注意点）</p> <p>14 特別の配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギー</p> <p>15 食育の基本と内容</p>				<p>16 調理室オリエンテーション、調理の基本説明</p> <p>17 基本調理1（和風料理）出汁の取り方</p> <p>18 基本調理2                   炊飯、卵、青菜</p> <p>19 基本調理3（西洋料理） 洋風スープの取り方</p> <p>20 基本調理4                   肉</p> <p>21 離乳食作成1（初期）</p> <p>22 離乳食作成2（中期）</p> <p>23 幼児食作成1（偏食について）野菜</p> <p>24 幼児食作成2                   魚</p> <p>25 幼児食作成3（咀嚼力について）</p> <p>26 幼児食作成4                   豆、小魚</p> <p>27 幼児食作成5（間食について） 手作りおやつ</p> <p>28 保育所給食                   市販菓子類の調査</p> <p>29 保育所給食の作成計画</p> <p>30 レポート作成</p>		
[学習上の留意点及び準備等]						
<p>テキスト及びプリントを用いて授業を行うので、ノート、プリントの整理、復習をする。</p> <p>調理実習では準備から後片付けまで各班で責任を持って行動する。食品衛生、調理器具、熱源の取り扱いに注意し、危険のないようにする。三角巾、エプロン、手拭き、筆記用具が必要。動きやすい服装で参加すること。</p>						
[成績評価方法と評価基準]						
筆記試験 70%      レポート 30%						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
家庭支援論	専門教育	2年次 後 期	講 義	2	木村 厚子	「児童の福祉を支える家庭支援論」 吉田眞理著 萌文書林
<p>[授業の概要]</p> <p>家庭支援とは「家庭を構成する家族メンバーや相互関係に働きかけて、必要な機能や役割が円滑に果たされるよう、また回復できるよう支援する役割りを担う」と定義されている。現在、多様性を増し、変化し続けている家庭の姿を理解しつつ、「子どもの最善の利益」を考えながら家庭支援のあり方とは何か、ともに育ちあう保育とは何か、法制度や社会資源支援サービスなど家庭支援に必要な知識をおさえながら、広い視野と、専門的的力量を持った保育者になれるよう、その都度事例などを通して理解できるよう授業を行う。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭支援がなぜ必要なのか、意義と役割について理解する。</li> <li>・家庭支援のための法制度や社会資源を理解する。</li> <li>・保育園(所)・幼稚園の日常生活、地域子育て支援活動、対象別、それぞれの家庭支援を学び理解する。</li> <li>・保育現場に活用できる援助技術を事例演習を通して学ぶ。</li> </ul>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家庭の意義</li> <li>2. 家庭の機能</li> <li>3. 社会の基礎単位としての家庭</li> <li>4. 保育士等が行う家庭支援の原理Ⅰ</li> <li>5. 保育士等が行う家庭支援の原理Ⅱ</li> <li>6. 現代の家庭における人間関係</li> <li>7. 家庭生活を取り巻く社会的状況</li> <li>8. 男女共同参画社会とワークライフバランス</li> <li>9. 子育て家庭の支援体制</li> <li>10. 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進</li> <li>11. 子育て支援サービスの概要</li> <li>12. 保育所による家庭支援</li> <li>13. 子育て支援と保護者の関係づくりへの支援</li> <li>14. 地域の子育て家庭への支援</li> <li>15. 子育て支援サービスの課題</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>講義形式を中心に授業展開する。(教科書を熟読する) 様々な事例演習を通して家庭支援の在り方を探る。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>授業態度20%、事例演習レポート20%、定期試験(筆記)60%</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単 位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
保育課程論	専門教育	2年次前期	講義	2	白井智佳子	幼稚園教育要領解説 (文部科学省・フレーベル館)
<p>〔授業の概要〕</p> <p>幼児教育は学校教育法に規定された目的や目標が達成されるよう、幼児の発達や特性を踏まえ適切に教育を行わなければならない。幼児にとって生涯の人格形成の基礎を身に付ける重要な時期を共にする幼稚園教諭として、幼児が遊びを通して学ぶものは何なのか、適切な環境を通して行う保育とはどういう保育なのかを授業を通して学ぶ。</p>						
<p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育の重要性や、教育課程・指導計画作成の意味を理解する。</li> <li>2. 理想とする幼稚園教育課程の協同作成を通して、幼稚園教諭としての資質を高める。</li> <li>3. 5領域の内容や教育的意味を実際の保育場面例を観ながら理解する。</li> </ol>						
<p>〔授業の計画・内容〕</p> <p>第1回：講義内容・評価基準の説明（シラバスに添って） 幼稚園教諭の役割とその意味（法令・幼稚園教育要領から）</p> <p>第2回：幼稚園教諭の役割とその意味（法令・幼稚園教育要領から）</p> <p>第3回：幼児教育の基本と計画</p> <p>第4回：幼児教育の総合的教育の実際とその意味（健康領域からせまる）</p> <p>第5回：幼児教育の総合的教育の実際とその意味（表現領域からせまる） 幼稚園における教育ビジョンと教育課程の実際</p> <p>第6回：幼児教育の総合的教育の実際とその意味（年長児劇表現からせまる）</p> <p>第7回：幼児教育の総合的教育の実際とその意味（年少児劇表現からせまる） レポート課題出題</p> <p>第8回：幼児教育の総合的教育の実際とその意味（環境からせまる）</p> <p>第9回：幼児教育の総合的教育の実際とその意味（環境からせまる）</p> <p>第10回：環境を通して行う教育とは</p> <p>第11回：幼児における協同体験の意味</p> <p>第12回：幼稚園教育と小学校教育との接続と指導計画・幼小中連携の実際</p> <p>第13回：幼稚園における保護者連携・地域連携</p> <p>第14回：幼稚園教育における学校評価・教員評価</p> <p>第15回：幼児教育・保育の重要性・全体のまとめ</p> <p>●第5～14回 ・理想の幼稚園教育課程の作成の協議と作業（グループ作業） ・教育課程の発表 上記の内容も並行して行う</p>						
<p>〔学習上の留意点及び準備等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回「幼稚園教育要領」を使用する。</li> <li>・配布された講義内容の資料はファイルし、毎回持参する。</li> </ul>						
<p>〔成績評価方法と評価基準〕</p> <p>課題（レポート）30%      教育課程作成時の参加姿勢 20%      定期試験（筆記）50%</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単 位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
保育内容総論Ⅰ	専門教育	1年次前期	演習	1	永井裕紀子	長島和代編『保育の基本用語』わかば社 厚生労働省『保育所保育指針解説書』 フレーベル館190円 文部科学省『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館190円
<p>〔授業の概要〕</p> <p>保育内容とは、保育所や幼稚園及び認定子ども園において、保育の目標を達成するために展開される全ての内容を意味する。保育所保育指針や幼稚園教育要領には、保育内容が子どもの発達の側面から5つの領域で示されているが、実際の保育においては、これらが総合的に行われる。本授業では保育所保育指針や幼稚園教育要領に基づく保育の基本と内容について相互的・総合的に学ぶと共に、保育内容の多様な展開について具体的に学習する。</p>						
<p>〔授業科目の到達目標〕</p> <p>保育内容の歴史の変遷について理解する。 保育内容と全体的構造について理解する。 保育の基本を踏まえた保育内容の多様な展開について学ぶ。</p>						
<p>〔授業の計画・内容〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園・保育所・認定子ども園の1日</li> <li>2. 遊びの捉え方・保育者の援助と環境構成</li> <li>3. 保育内容の基本</li> <li>4. 保育所の役割と保育内容</li> <li>5. 幼稚園の役割と保育内容</li> <li>6. 認定子ども園の役割と保育内容</li> <li>7. 遊びの実践を通じて5領域を考える</li> <li>8. 0～2歳満児の保育内容</li> <li>9. 3～5歳児の保育内容</li> <li>10. 保育内容の歴史概観 戦前</li> <li>11. 保育内容の歴史概観 戦後</li> <li>12. 保育の多様な展開</li> <li>13. 模擬的な保育実践 (エプロンシアター)</li> <li>14. 模擬的な保育実践 (エプロンシアター)</li> <li>15. 保育内容における現状と課題</li> </ol>						
<p>〔学習上の留意点及び準備等〕</p> <p>幼稚園教育要領・保育所保育指針は解説とともに家庭学習においても、目を通しておくこと。</p>						
<p>〔成績評価方法と評価基準〕</p> <p>レポート 50%、定期試験(筆記) 50%</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
健康指導法	専門教育	1年次 後 期	演 習	1	中島 孝子	「健康」池田裕恵編著 不昧堂出版 1,890円
<p>[授業の概要]</p> <p>健康は伝播する。保育者の個性、生き方はもちろんのこと、心身の健康状態もまた、子どもに大きく影響する。したがってまず学生自身が自らの健康を考え、健康管理を実践することの意義を学び、この健康指導法という授業の意義、ねらい、内容について詳しく学ぶことが必要である。その認識の上で幼年期における心身の発達、発達の概念や子どもが安全で健康な生活をおくるための保育者としての心構え、事故と潜在危険との関わり、事故頻発児のチェックの仕方など、保育の現場で必要とされる健康指導の実際と指導上の留意点について詳しく学ぶ。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の大切さを理解する</li> <li>・幼児の安全指導について理解する</li> <li>・真の意味の安全教育について理解する</li> </ul>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 健康とは何か 健康指導法の意義、ねらい、内容について</li> <li>2 幼児の安全指導について、事故傾向児チェックリストについて</li> <li>3 事故と潜在危険について</li> <li>4 園児事故の実態について</li> <li>5 真の意味の安全教育とは何か</li> <li>6 子どもの健康な生活／基本的生活習慣 (1) 睡眠</li> <li>7 子どもの健康な生活／基本的生活習慣 (2) 食事</li> <li>8 子どもの健康な生活／基本的生活習慣 (3) 排泄</li> <li>9 子どもの健康な生活／基本的生活習慣 (4) 清潔</li> <li>10 子どもの健康な生活／基本的生活習慣 (5) 衣服の着脱</li> <li>11 現代のこどもの心と体をめぐる諸問題について 演習 (1) (第1グループ発表)</li> <li>12 現代のこどもの心と体をめぐる諸問題について 演習 (2) (第2グループ発表)</li> <li>13 現代のこどもの心と体をめぐる諸問題について 演習 (3) (第3グループ発表)</li> <li>14 現代のこどもの心と体をめぐる諸問題について 演習 (4) (第4グループ発表)</li> <li>15 現代のこどもの心と体をめぐる諸問題について</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>毎時間プリント配布。単に講義を聞くだけでなく、テキストと併せて要点をプリントにまとめながら、時にはレポートを課して、動機づけを高めながら授業を進めていく。したがって、テキストのみならずプリントも重要な試験内容となるので、欠席した場合は必ず後日フォローしておくことが望ましい。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>講義形式を中心に個別発表を取り入れながら授業を展開する。 レポート40% 授業への意欲・態度60%</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
人間関係指導法	専門教育	1年次 後 期	演 習	2	久保田真規子	保育内容 人間関係 (みらい)
<p>[授業の概要]</p> <p>人が良好な人間関係を築く上で、現代社会ではどのようなことが課題となっているのでしょうか。この授業では、受講者が自身を振り返りながら人間関係の歩みについて捉えていくことからスタートします。</p> <p>人と関わる力はどのように獲得されていくのでしょうか。</p> <p>乳幼児期の発達の過程、特に愛着形成や自我の育つ過程を丁寧に見ていきます。保育者は子ども達や保護者にどのような援助をしていくとよいのか、またそのために保育者集団や関連職種との関係など具体的な方法について学んでいきましょう。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>(1) 人間関係を考える際のさまざまな形態(個人、二者関係、集団など)について理解する。</p> <p>(2) 子どもの発達に即して保育における人間関係のあり方について理解する。</p> <p>(3) 子どもの発達を援助する大人同志(保育者、保護者、関連職種等)の人間関係のあり方について理解する。</p>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、領域「人間関係」の考え方</li> <li>2 子どもの育ちと人間関係 (1) 人間にとっての人間関係の重要性</li> <li>3 子どもの育ちと人間関係 (2) 人とのかかわりと乳児期(0歳)のこころの発達</li> <li>4 子どもの育ちと人間関係 (3) 人とのかかわりと幼児期前半(1・2歳)のこころの発達</li> <li>5 子どもの育ちと人間関係 (4) 人とのかかわりと幼児期後半(3～6歳)のこころの発達</li> <li>6 遊びの中で育つ人とのかかわり</li> <li>7 発達に不安を抱える子どもと保育者のかかわり</li> <li>8 現代の子育てを取り巻く状況</li> <li>9 保護者との人間関係</li> <li>10 保育者同士の人間関係</li> <li>11 子どもの発達を援助する専門家の技と心</li> <li>12 パネルシアターを介した人間関係 (1) 演習</li> <li>13 パネルシアターを介した人間関係 (2) 発表</li> <li>14 現代における人間関係の特徴(子ども・おとな)</li> <li>15 全体のまとめ</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の子どもの発達について、基本的な事項を復習しておきましょう。</li> <li>・ボランティアや実習などで実際に観察・体験した印象的なエピソードを振り返り、まとめておくとよいでしょう。</li> <li>・保育や教育の専門書に限らず、絵本・パネルシアターや映画などからも「人間関係」について考えます。</li> </ul>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み姿勢・定期試験(筆記)と総合的に判断します。</li> <li>・授業の感想カードや小レポートの提出、及び課題発表の取り組みも評価対象とします。</li> </ul>						



科 目	種 別	開講時期	授業形態	単 位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
環境指導法	専門教育	2年次 後 期	演 習	1	永井裕紀子	無藤 隆 監修 事例で学ぶ保育内容『環境』 萌文書林 2,100円
<p>[授業の概要]</p> <p>子どもたちは、園生活を通して自然や文字等、身近な環境に出会い、好奇心や探究心を持って関わり、楽しんだり考えたりしながら感情や感覚を豊かにしていきます。</p> <p>本授業では、子どもを取り巻く環境の意味や重要性を認識しながら、保育環境の具体的なデザインについて考えます。また、子どもたちがどのように環境との関わりを深めていくのか事例を通して理解を深めつつ、子どもの好奇心・探究心を支え、育てる保育者の役割について考えます。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>領域「環境」のねらいと内容を理解する。</p> <p>子どもを取り巻く環境の意味や重要性を認識しながら、保育環境がデザインできる。</p> <p>子どもたちが身近な環境とどのように関わりを深めていくか理解する。</p> <p>子どもの好奇心・探求心を支え、育てる保育者の役割について理解する。</p>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 領域「環境」とは</li> <li>2. 子どもの育ちと環境</li> <li>3. 環境の変化と子どもの生活・遊び</li> <li>4. 子どもと自然との関わり (洋種山牛蒡で遊ぶ)</li> <li>5. 身近な環境とその意味について考える (グループ)</li> <li>6. 身近な環境とその意味について考える (発表)</li> <li>7. レッジョ・エミリア (イタリア) における幼児教育環境</li> <li>8. 遊び空間をデザインする (個別)</li> <li>9. 子どもと生き物との関わり</li> <li>10. 子どもと文字・標識との関わり</li> <li>11. 子どもと数量・図形との関わり</li> <li>12. 子どもと物や道具との関わり</li> <li>13. 子どもと文化 (日本や諸外国) との関わり</li> <li>14. VTR「でんじろうとりょうた」から考える保育者の役割</li> <li>15. 子どもの好奇心・探究心を育て、支える保育者の役割</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>実習に行った際に、保育室や園庭の環境がどのように構成されているかを見てきてください。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>・提出物 (4点) 20% ・グループ発表 10% ・定期試験 (筆記) 70%</p>						



科目	種別	開講時期	授業形態	単位	担当者	テキスト(書名・著者・出版社等)
言葉指導法	専門科目	1年次前期	演習	1	梅田 優子	開講時に指定する
<p>〔授業の概要〕</p> <p>現在の保育の基本的な考え方と、言葉の獲得に関する領域「言葉」のねらいや内容について理解する。</p> <p>乳幼児期における言葉の発達は「話す」「聞く」の獲得が中心となり、それは子どもにとって身近な大人とのコミュニケーションによって育まれていく。そうした育ちを手助けする保育者としてのあり方について考えていく。さらに、幼児期の子どもの「読む」「書く」への関心の芽生えやその援助のあり方について学ぶ。また、言葉の領域に関連の深い絵本について、絵本作り等を通じて理解を深めていく。</p>						
<p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の保育における基本的な考え方と領域「言葉」に示される「ねらい」及び「内容」を理解する。</li> <li>・乳幼児期の言葉の成長・発達の側面から子どもを理解し、保育者としての援助のあり方について理解する。</li> <li>・絵本作成を通じて、絵本及び子どもに語りかける言葉について理解を深める。</li> </ul>						
<p>〔授業の計画・内容〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 保育の基本(1) 環境を通しての保育</li> <li>3 絵本の作成</li> <li>4 保育の基本(2) 遊びを通しての総合的な指導</li> <li>5 領域「言葉」のねらい及び内容</li> <li>6 言葉の発達と環境・援助(1) ことばの前のことば</li> <li>7 言葉の発達と環境・援助(2) 身体によるコミュニケーション</li> <li>8 言葉の発達と環境・援助(3) 一語のあらわすもの</li> <li>9 作成絵本の紹介</li> <li>10 言葉の発達と環境・援助(4) 文法の獲得や質問</li> <li>11 言葉の発達と環境・援助(5) 日常の会話を楽しむ</li> <li>12 言葉の発達と環境・援助(6) 考える力の育ち</li> <li>13 言葉の発達と環境・援助(7) 子どもの読むことへの興味・関心</li> <li>14 言葉の発達と環境・援助(8) 子どもの書くことへの興味・関心</li> <li>15 まとめ</li> </ol>						
<p>〔学習上の留意点及び準備等〕</p> <p>授業では、板書の内容だけでなく、必要なことは自分でメモをとってノートを作っていく。</p>						
<p>〔成績評価方法と評価基準〕</p> <p>絵本の作成・提出 レポートの提出(授業内レポートも含む)</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
表現指導法	専門教育	1年次前期	演習	1	中島 孝子	「表現」中島孝子 他共著 不昧堂出版 2,100円
<p>〔授業の概要〕</p> <p>表現とは何か、日々の何げない行為の中にも子ども達の個性あふれる表現が存在すること認識しつつ、どうやったら伸び伸びとした様々な表現を子ども達から引き出すことができるか、また、いかにしたら幼児の表現活動を活発に生き生きと展開させることができるかを、いくつかの表現課題や演習を行いながら探っていきたい。授業の前半は主として身体表現活動を中心に、各種リズム遊びや模倣遊び、リトミック等、リズムに関係する表現に取り組み、後半はやや内容を高度にし、様々な異なった領域と表現の融合を試みていきたい。すなわち、他の領域との関わりのなかで、表現はどのように展開しうるか、実験的表現課題をそのつど提示しながら幾つかの事例をあげて探っていきたい。</p>						
<p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムに乗って、生き生きとダイナミックに動くことができる。</li> <li>・恥ずかしがらずに自分を表現できる。</li> <li>・他者の表現を認めることができる。</li> </ul>						
<p>〔授業の計画・内容〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 表現とは何か、リズムあそび、リトミック他</li> <li>3 リズムに合わせて動こう①</li> <li>4 リズムに合わせて動こう②</li> <li>5 リズムに合わせて動こう③</li> <li>6 表現課題 (1) 幼児体操を創ろう ①</li> <li>7 表現課題 (1) 幼児体操を創ろう ② ※</li> <li>8 表現課題 (2) ニュースペーパー ①</li> <li>9 表現課題 (2) ニュースペーパー ② ※</li> <li>10 表現課題 (3) 山の音楽家たち ①</li> <li>11 表現課題 (3) 山の音楽家たち ② ※</li> <li>12 表現課題 (4) わたしの家族(マイファミリー) ※</li> <li>13 表現課題 (5) 素話① 「かさこじぞう」</li> <li>14 表現課題 (5) 素話② 課題発表(第1グループ) ※</li> <li>15 表現課題 (5) 素話③ 課題発表(第2グループ) ※</li> </ol>						
<p>〔学習上の留意点及び準備等〕</p> <p>演習形式の授業であるので、動ける服装での出席が第一条件。上手下手よりも毎時間の課題にどれだけ熱意をもつてのぞみ、意欲的に取り組んだかを評価したい。尚、上記の授業計画のうち※マークがついている時間には随時評価をしているので注意をして授業にのぞんでほしい。</p>						
<p>〔成績評価方法と評価基準〕</p> <p>※のついている課題 80%、授業への意欲・関心・態度 20%</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単 位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
乳児保育 I	専門教育	1 年次 通 年	演 習	2	藤島由美子	「乳児の生活と保育」 2,100円+税 松本園子 他 編著 ななみ書房
<p>〔授業の概要〕</p> <p>乳児期は人や物との関わりをとおして心身ともに著しい発達をしてゆく時期である。人格形成の基礎づくりの重要な時期でもある。</p> <p>乳児は愛情深く、専門的な知識・技術を持った保育者の適切な対応を受けることで健やかに育っていく。保育における保育者の役割は大きい。ここでは主に乳児期における基本的な知識・技術に基づく援助や関わりについて実習をしながら身につける。</p>						
<p>〔授業科目の到達目標〕</p> <p>○乳児の心、機能の発達を理解する。</p> <p>○演習で身につけたものを保育実践で生かせるようになる。</p> <p>○乳児を守りながら、心の保育をすることを理解する。</p>						
<p>〔授業の計画・内容〕</p> <p>1 乳児保育とは</p> <p>2 保育者としての使命</p> <p>3 命について・母子との関係</p> <p>4 乳児の発達について</p> <p>5 <b>演習</b></p> <p>初めて乳児に接するとき 言葉のない乳児の心をどう理解するか</p> <p>6 ・抱っこの仕方 2か月～3か月 4か月～</p> <p>7 ・おんぶの仕方、おんぶ紐の扱い方</p> <p>8 ・おむつの扱い方</p> <p>9 ・おむつの扱い方</p> <p>10 ・授乳の仕方、調乳の仕方</p> <p>11 ・授乳の仕方、調乳の仕方</p> <p>12 安全と健康、衛生管理について</p> <p>13 安全と健康、衛生管理について</p> <p>14 発達を考慮した乳児の玩具について</p> <p>15 玩具を作ってみよう</p>					<p>16 <b>演習</b></p> <p>衣服の扱い方、着脱等</p> <p>17 衣服の着脱、睡眠の介助</p> <p>18 乳児保育の基本的な知識について</p> <p>19 <b>新生児から1歳3か月児の心身の発達と保育内容</b></p> <p>20 (1) 2か月～4か月児</p> <p>21 (2) 5か月～6か月児</p> <p>22 (3) 7か月～8か月児</p> <p>23 (4) 9か月～10か月児</p> <p>24 (5) 11か月～12か月児</p> <p>25 (6) 1才～1才3か月児</p> <p>26 (1) 健康管理と事故防止対策</p> <p>27 (2) 健康管理と事故防止対策</p> <p>28 (3) 健康管理と事故防止対策</p> <p>29 保護者との連携プレー</p> <p>30 まとめ</p>	
<p>〔学習上の留意点及び準備等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で配布するプリントは必ず目を通す。</li> <li>・新たな保育情報に常に関心を持ち、授業内容の理解に生かす。</li> <li>・参考書等を利用し、積極的に学習を進める。</li> </ul>						
<p>〔成績評価方法と評価基準〕</p> <p>定期試験 (50%) 授業態度 (30%) 提出物・配布物の管理等 (20%)</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
障害児保育	専門教育	2年次 通 年	演 習	2	小川 崇	特に指定しない。 授業中に資料を配付する。
<p>[授業の概要]</p> <p>「障害」の有無に関わらず、すべての子どもたちに豊かな乳幼児期を保障するためには、「障害児(者)」に対する保育や教育がどのように展開されてきており、そこでは何が大切にされてきたか、また障害についての基礎的な知識を学ぶことは欠かせない。ここでは、そのために障害をどのようにとらえたらよいか(定義)を知った上で、障害児(者)を取り巻く社会や制度について考える。事例を取り上げて障害についての理解を深めていきたい。また、後期は前期の学びを踏まえて障害児(者)とどう関わるかということに関わる課題を受講者自身に考えてもらう機会としたい。具体的には、グループごとにテーマを設定して、考え、調べたことを発表してもらい、議論を深めていきたいと思う。このようなことを学ぶ中で、受講者自身が抱いているイメージや先入観を自覚し、問い直してもらえればと思う。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「障害」とは、一般的にどのような状態を指すのかということを理解する。</li> <li>・個別の「障害」についての理解を深める。</li> <li>・以上のことを踏まえた上で、「障害児(者)」とどのように関わればよいかということをも自分なりに考える。</li> </ul>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害をどう考えるか</li> <li>2. 障害児保育を支える理念：ノーマライゼーション、インテグレーション、インクルージョン</li> <li>3.                    "</li> <li>4. 障害の「医療モデル」と「社会モデル」</li> <li>5.                    "</li> <li>6. 障害の理解①身体障害</li> <li>7.                    "</li> <li>8. 障害の理解②知的障害</li> <li>9.                    "</li> <li>10. 障害の理解③発達障害</li> <li>11.                   "</li> <li>12. 障害児保育の方法</li> <li>13.                   "</li> <li>14. 障害児(者)との関わり</li> <li>15. まとめとふりかえり</li> </ol> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. ~30.</li> </ol> <p>前期の学習を踏まえて、「障害児(者)とどう関わるか」「障害をどのように理解したらよいか」ということをテーマにして、グループ発表を行う。</p>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>前期は講義を中心にワークショップ形式を取り入れる。後期はグループワーク、ディスカッション形式が中心になる。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>レポート(前・後期)およびグループ発表による。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
社会的養護内容	専門科目	1年次 後 期	演 習	1	福原 英起	新・プリマシリーズ／保育／福祉 『社会的養護内容』谷口純世・山縣文治 編著 ミネルヴァ書房 社会福祉小六法2017[平成29年版] ミネルヴァ書房 1,600円＋税
<p>〔授業の概要〕</p> <p>政府は、少子化を食い止めるため、様々な少子化対策や子育て支援策を講じているが、期待されているような合計特殊出生率の上昇は見られない。むしろ、子どもと家庭を取り巻く環境はさらに厳しさを増している。これは、「社会的養護Ⅰ」の授業の概要でも言及したように、児童相談所への虐待の相談処理件数が増加の一途をたどっていることから推察できる。</p> <p>社会的養護には、児童福祉施設による養護と里親等による家庭的養護に分類される。社会的養護への認識も高まってきているため、国も社会的養護の緊急性や重要性を認め、施設の小規模やファミリーホームの設置等の施策を講じている。</p> <p>しかし、社会的養護を必要とする子どもとそれを取り巻く環境に対して、自分とは、そして、私たちとはまったく関係のない世界の出来事と捉えてしまいがちである。</p> <p>前期の「社会的養護Ⅰ」と後期の「社会的養護内容」とは、「原理」と「実践」の関係にあり、この講義では、社会的養護の業務内容や職員の基本的な姿勢や心構え、専門的な関わり等について、実践事例に触れながら理解を深められるようにしたい。</p>						
<p>〔授業科目の到達目標〕</p> <p>社会的養護における子どもの権利擁護と保育士の倫理および責務について理解する。 社会的養護の実施体系について理解する。 支援計画とその内容について理解する。 専門的知識や技術について理解する。 今後の課題と展望について理解する。</p>						
<p>〔授業の計画・内容〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、子どもの権利擁護</li> <li>2. 保育士の倫理・責務</li> <li>3. 社会的養護とは</li> <li>4. 社会的養護の特性と実際</li> <li>5. 里親制度の特性と実際</li> <li>6. 個別支援計画</li> <li>7. 日常生活支援に関する事例分析</li> <li>8. 治療的支援に関する事例分析</li> <li>9. 自立支援の事例分析</li> <li>10. 記録と自己評価</li> <li>11. 支援者に求められる支援の基本</li> <li>12. 生活支援者に求められる専門性</li> <li>13. 相談援助に関する知識・技術</li> <li>14. 施設の小規模化と地域との関わり</li> <li>15. 社会的養護の課題と展望</li> </ol>						
<p>〔学習上の留意点及び準備等〕</p> <p>講義の前には必ずテキストを読み、問題点や疑問点を明確にする。 講義で触れた法律の条文に当たる。 新聞に目を通し、講義と関係のある記事を読み、出来ればスクラップして感想を書いてみる。</p>						
<p>〔成績評価方法と評価基準〕</p> <p>授業への参加態度、提出物、小テスト、定期試験（筆記）等から総合的に判断する。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
保育相談支援	専門教育	1年次 後 期	演 習	1	木村 厚子	「保育相談支援」 小林育子著 萌文書林
<p>[授業の概要]</p> <p>すべての家庭を視野に入れた保護者への支援は、保育の専門性を生かした重要な役割である。保護者のニーズにあった保育指導を展開するには、子どもの発達を中心とした「保育」に関する専門知識と技術に加え、ソーシャルワークやカウンセリングといった近接領域の専門知識と技術を応用できる力が必要となる。保育に関する専門的知識、技術、価値を媒体として保護者が抱える子育てにまつわる課題や問題の解決を目指して行う相談・支援活動を、保育現場でどのように行われているのかを理解できるように事例や演習を多く取り入れ授業を進めていく。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者支援の内容と技術について学び理解する。</li> <li>・相談支援の実際を経験的に理解できるよう、事例を通して学ぶ。</li> <li>・相談支援に必要な他の社会資源にどのような機関があるかを学ぶ。</li> <li>・保育所以外の児童福祉施設の保育相談支援を学ぶ。</li> </ul>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保護者に対する保育相談支援の意義</li> <li>2. 保育の特性と専門性を生かした支援</li> <li>3. 子どもの最善の利益と福祉の重視</li> <li>4. 子どもの成長の喜びの共有</li> <li>5. 保護者の養育力の向上</li> <li>6. 信頼関係を基本とした受容的かかわり</li> <li>7. 保育相談支援の実際 (1) 保護者の生活・行動特性を理解する</li> <li>8. 保育相談支援の実際 (2) 保育相談支援の実践</li> <li>9. 保育相談支援の実際 (3) 関連機関との連携</li> <li>10. 保育相談支援の技術と留意点</li> <li>11. 日常的な場面で行う保育相談支援</li> <li>12. 特定の機会を設定して行う保育相談支援</li> <li>13. 地域子育て支援における保育相談支援</li> <li>14. 保育所以外の施設における保育相談支援の特性と実践内容について</li> <li>15. 保育相談支援の現状と課題</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>講義形式を中心に授業展開する。(教科書を熟読する) 様々な事例演習を通して家庭支援の在り方を探る。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>授業態度 20%、事例演習レポート 20%、定期試験(筆記) 60%。</p>						

科目	種別	開講時期	授業形態	単位	担当者	テキスト(書名・著者・出版社等)																																
音楽表現	専門教育	1年次 通年	演習	2	斎藤 竜夫 吉田 裕子	幼児のための音楽教育 教育芸術社 2,100円 新・声楽指導教本 教育芸術社 1,890円																																
<p>〔授業の概要〕</p> <p>乳幼児期の心身の成長発達にとって、音の世界の果している役割は重大である。乳幼児の言語機能、運動感覚、審美的情操は、音の世界が持つリズム、メロディー、ハーモニーと深く関係する。パーソナリティの基盤はこの時期の音の世界を通じて形成されるといってよい。このような認識を踏まえ、この演習では音楽を構成する基本的要素の理解や、知識、技能の習熟に努めながら、乳幼児期に対する音楽教育のあり方を考え、その効果的方法について実践研究していきたい。理屈ではなく、保育者自らが音楽を楽しみ、幼児とともに音楽活動を展開できることが重要と考える。つまり、率先して歌い、踊り、楽器遊びをすることができるようにしたい。</p>																																						
<p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な楽曲の理解と適確な表現</li> <li>・ いつでも明るくはっきりした声が出せるような発声法の習得</li> </ul>																																						
<p>〔授業の計画・内容〕</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th>前期</th> <th>後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 学園歌 再び会える日 発声の基本1</td> <td>1 合唱表現1</td> </tr> <tr> <td>2 音楽理論理解度テスト 中短ミュージカル楽曲1</td> <td>2 合唱表現2</td> </tr> <tr> <td>3 発声の基本2 中短ミュージカル楽曲2</td> <td>3 合唱表現3</td> </tr> <tr> <td>4 発声の基本3 中短ミュージカル楽曲3</td> <td>4 子どもの発達と音楽表現1 うた</td> </tr> <tr> <td>5 教科書の楽曲 子どもの歌1</td> <td>5 子どもの発達と音楽表現2 うごき</td> </tr> <tr> <td>6 教科書の楽曲 子どもの歌2</td> <td>6 子どもの発達と音楽表現3 楽器</td> </tr> <tr> <td>7 教科書の楽曲 子どもの歌3</td> <td>7 わらべうた</td> </tr> <tr> <td>8 合唱表現① (テキスト内の自由曲、グループ発表)</td> <td>8 手作り楽器1</td> </tr> <tr> <td>9 合唱表現②</td> <td>9 手作り楽器2</td> </tr> <tr> <td>10 合唱表現③</td> <td>10 手作り楽器3</td> </tr> <tr> <td>11 実習事前指導①</td> <td>11 リトミックについて</td> </tr> <tr> <td>12 実習事前指導②</td> <td>12 保育現場における音楽表現1</td> </tr> <tr> <td>13 実習事後指導</td> <td>13 保育現場における音楽表現2</td> </tr> <tr> <td>14 合唱表現④</td> <td>14 保育現場における音楽表現3</td> </tr> <tr> <td>15 まとめ</td> <td>15 まとめ</td> </tr> </tbody> </table>							前期	後期	1 学園歌 再び会える日 発声の基本1	1 合唱表現1	2 音楽理論理解度テスト 中短ミュージカル楽曲1	2 合唱表現2	3 発声の基本2 中短ミュージカル楽曲2	3 合唱表現3	4 発声の基本3 中短ミュージカル楽曲3	4 子どもの発達と音楽表現1 うた	5 教科書の楽曲 子どもの歌1	5 子どもの発達と音楽表現2 うごき	6 教科書の楽曲 子どもの歌2	6 子どもの発達と音楽表現3 楽器	7 教科書の楽曲 子どもの歌3	7 わらべうた	8 合唱表現① (テキスト内の自由曲、グループ発表)	8 手作り楽器1	9 合唱表現②	9 手作り楽器2	10 合唱表現③	10 手作り楽器3	11 実習事前指導①	11 リトミックについて	12 実習事前指導②	12 保育現場における音楽表現1	13 実習事後指導	13 保育現場における音楽表現2	14 合唱表現④	14 保育現場における音楽表現3	15 まとめ	15 まとめ
前期	後期																																					
1 学園歌 再び会える日 発声の基本1	1 合唱表現1																																					
2 音楽理論理解度テスト 中短ミュージカル楽曲1	2 合唱表現2																																					
3 発声の基本2 中短ミュージカル楽曲2	3 合唱表現3																																					
4 発声の基本3 中短ミュージカル楽曲3	4 子どもの発達と音楽表現1 うた																																					
5 教科書の楽曲 子どもの歌1	5 子どもの発達と音楽表現2 うごき																																					
6 教科書の楽曲 子どもの歌2	6 子どもの発達と音楽表現3 楽器																																					
7 教科書の楽曲 子どもの歌3	7 わらべうた																																					
8 合唱表現① (テキスト内の自由曲、グループ発表)	8 手作り楽器1																																					
9 合唱表現②	9 手作り楽器2																																					
10 合唱表現③	10 手作り楽器3																																					
11 実習事前指導①	11 リトミックについて																																					
12 実習事前指導②	12 保育現場における音楽表現1																																					
13 実習事後指導	13 保育現場における音楽表現2																																					
14 合唱表現④	14 保育現場における音楽表現3																																					
15 まとめ	15 まとめ																																					
<p>〔学習上の留意点及び準備等〕</p> <p>子どもたちとともに音楽を楽しめる基礎技能の修得に努めること。</p>																																						
<p>〔成績評価方法と評価基準〕</p> <p>前後期の定期試験(実技) レポートおよび授業への参加姿勢を総合して評価する。</p>																																						



科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
ピアノ表現Ⅰ	専門教育	1年次 通 年	演 習	2	斎藤 竜夫 他	幼児のための音楽教育 教育芸術社 2,100円 歌唱教材伴奏法 教育芸術社 1,600円
<p>[授業の概要]</p> <p>保育者のピアノ技術が浅いため、幼児にとって本来わくわくするような楽しい音楽が、無味乾燥なものになってしまっていることが保育現場でしばしば見受けられる。保育者が子どもたちに背を向けて、楽譜にかじりつきひたすらピアノを弾いていたのでは、子どもたちは本気になって保育者とコミュニケーションをはかったり、音楽と付き合うことはしないであろう。このような認識からこの演習では従来の個人レッスンはもちろん、コード伴奏法ならびに音楽理論も導入し実践に即したピアノ奏法を研究する。つまり、単に楽譜をピアノで弾き表すだけでなく、その場の雰囲気、子どもたちの反応によって、臨機応変に音楽を変えていくことのできる即興力、応用力が必要と考える。走ったり、行進したり、リズム遊びする子どもの、創造性やイメージを引き出せる伴奏を目指す。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハ長調、ヘ長調、ト長調の主要三和音の理解と実践</li> <li>・弾き歌いに親しむこと</li> <li>・子どもの歌のレパートリーの拡大</li> <li>・本学グレード試験取得（弾き歌い12級・課題曲12級）</li> </ul>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <p>I 個人レッスン 1対1の個人レッスンによってピアノの演奏技術の体得ならびに向上を目指す。 学生は担当教員と相談のうえ、進度に合わせてバイエル・ツェルニー・ソナチネ・インヴェンション等を教材として学ぶ。</p> <p>II グループワーク（音楽理論） 基本的な音楽理論（楽典）の学習と、それをふまえてのコード理論の学習</p> <p>III グループレッスン（弾き歌い） 上記Ⅰ・Ⅱの内容を総合した弾き歌いの実践として、実際の保育現場において需要の高い曲を実習する</p> <p>1コマ90分を前半と後半に分けて授業をおこなう。A組は前半個人レッスン・後半は2組に分かれてグループワークとグループレッスンをを行う。B組は前半2組に分かれてグループレッスンとグループワーク、後半に個人レッスンをを行う。</p>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>本演習においては授業形態の特性上、授業時前半と後半に教室移動の必要がある。学生の迅速な行動を望む。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>年5回のグレード試験、前・後期1回ずつの音楽理論の定期試験（筆記）で評価する。また授業中の演奏、その進捗状況も評価対象である。</p>						



科 目	種 別	開講時期	授業形態	単 位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)		
造形表現 I	専門教育	1年次 通 年	演 習	2	村 木 薫	幼児教育法講座造形表現(実技編) 花篤 實ほか編著 1,900円三晃書房		
<p>〔授業の概要〕</p> <p>造形に対する基礎的な知識や技能を身につけるとともに、保育内容を理解し、展開するために必要な知識や技術を習得する。美しいとはどういうことか、子どもの絵の発達といった内容を実際の制作を通して学び、造形の楽しさや喜びを知る。</p>								
<p>〔授業科目の到達目標〕</p> <p>造形活動を通じて様々な技法の理解を深める。 造形活動を通して子どもたちへの理解を深める。 パネルに色彩構成するなかで色彩感覚を高める。 パネルシアターなどの課題に取り組み、保育の組み立てを深める。</p>								
<p>〔授業の計画・内容〕</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 1 造形表現概説 なぜ子どもは絵を描くのだろう (子どもの発達と造形表現に関するガイダンス) 2 植物のスケッチ(春の草花を水彩画で描いてみよう) 3 植物のスケッチ(着色・講評) 4 事例研究1(フロッタージュについて) 5 事例研究1(フロッタージュを用いた作品制作) 6 三原色についての演習(作品制作) 7 事例研究2(にじみ、ぼかし、ドリッピングなど) 8 事例研究3(マスキング、スクラッチなど) 9 ボディペインティング(屋外での活動演習) 10 色彩の感情表現演習 11 五感を使うイメージトレーニング 12 五感を使う作品制作(言葉や音からの造形表現) 13 色彩の多様な表現について(グラデーション) 14 グラデーション演習(下絵作り) 15 グラデーション演習(着色) </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 16 色彩構成演習(写実と抽象について) 17 色彩構成演習(パネルボードに水張り) 18 色彩構成演習(下絵制作) 19 色彩構成演習(着色) 20 色彩構成演習(着色及び講評) 21 植物を用いた平面構成(材料への関わり) 22 植物を用いた平面構成(色・素材から言葉へ) 23 紙版画制作(なぐり描きから形の発見へ) 24 紙版画制作(版制作) 25 紙版画制作(刷り) 26 事例研究4(土粘土(立体表現)での表現) 27 パネルシアターの制作 (オリジナルの物語を考える) 28 パネルシアターの制作 (スケッチおよび下絵制作) 29 パネルシアターの制作(着色) 30 パネルシアター発表会 </td> </tr> </table>							1 造形表現概説 なぜ子どもは絵を描くのだろう (子どもの発達と造形表現に関するガイダンス) 2 植物のスケッチ(春の草花を水彩画で描いてみよう) 3 植物のスケッチ(着色・講評) 4 事例研究1(フロッタージュについて) 5 事例研究1(フロッタージュを用いた作品制作) 6 三原色についての演習(作品制作) 7 事例研究2(にじみ、ぼかし、ドリッピングなど) 8 事例研究3(マスキング、スクラッチなど) 9 ボディペインティング(屋外での活動演習) 10 色彩の感情表現演習 11 五感を使うイメージトレーニング 12 五感を使う作品制作(言葉や音からの造形表現) 13 色彩の多様な表現について(グラデーション) 14 グラデーション演習(下絵作り) 15 グラデーション演習(着色)	16 色彩構成演習(写実と抽象について) 17 色彩構成演習(パネルボードに水張り) 18 色彩構成演習(下絵制作) 19 色彩構成演習(着色) 20 色彩構成演習(着色及び講評) 21 植物を用いた平面構成(材料への関わり) 22 植物を用いた平面構成(色・素材から言葉へ) 23 紙版画制作(なぐり描きから形の発見へ) 24 紙版画制作(版制作) 25 紙版画制作(刷り) 26 事例研究4(土粘土(立体表現)での表現) 27 パネルシアターの制作 (オリジナルの物語を考える) 28 パネルシアターの制作 (スケッチおよび下絵制作) 29 パネルシアターの制作(着色) 30 パネルシアター発表会
1 造形表現概説 なぜ子どもは絵を描くのだろう (子どもの発達と造形表現に関するガイダンス) 2 植物のスケッチ(春の草花を水彩画で描いてみよう) 3 植物のスケッチ(着色・講評) 4 事例研究1(フロッタージュについて) 5 事例研究1(フロッタージュを用いた作品制作) 6 三原色についての演習(作品制作) 7 事例研究2(にじみ、ぼかし、ドリッピングなど) 8 事例研究3(マスキング、スクラッチなど) 9 ボディペインティング(屋外での活動演習) 10 色彩の感情表現演習 11 五感を使うイメージトレーニング 12 五感を使う作品制作(言葉や音からの造形表現) 13 色彩の多様な表現について(グラデーション) 14 グラデーション演習(下絵作り) 15 グラデーション演習(着色)	16 色彩構成演習(写実と抽象について) 17 色彩構成演習(パネルボードに水張り) 18 色彩構成演習(下絵制作) 19 色彩構成演習(着色) 20 色彩構成演習(着色及び講評) 21 植物を用いた平面構成(材料への関わり) 22 植物を用いた平面構成(色・素材から言葉へ) 23 紙版画制作(なぐり描きから形の発見へ) 24 紙版画制作(版制作) 25 紙版画制作(刷り) 26 事例研究4(土粘土(立体表現)での表現) 27 パネルシアターの制作 (オリジナルの物語を考える) 28 パネルシアターの制作 (スケッチおよび下絵制作) 29 パネルシアターの制作(着色) 30 パネルシアター発表会							
<p>〔学習上の留意点及び準備等〕</p> <p>授業で配布するプリントは必ず目を通す。 課題提出にあたり提出締め切りは必ず守る。 自分の制作だけではなく他の学生の作品をよく見るようにし、お互いの意見交換を行う。</p>								
<p>〔成績評価方法と評価基準〕</p> <p>課題 80% スケッチブック 20% 計 100%</p>								

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単 位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
身体表現 I	専門教育	2年次前期	演習	1	坂内 寿子	保育の中の運動あそび 石井美晴・菊地秀範 編 萌文書林 1,800円＋税
<p>[授業の概要]</p> <p>人生の基礎を培う幼児期に、心身共に健康な土台づくりをするためには、この時期の子どもにとって本当に必要な刺激を与えなければならない。本授業は保育者として必要な身体運動の基礎的能力を養うとともに保育における実践的展開に必要な指導技術を習得することを目的とし、習熟度別授業を中心に実技を行う。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムカルに全身を使った表現ができる。</li> <li>・保育に必要な身体表現の基礎技術を身につける。</li> <li>・自分ができるようになることを通して子どもたちにとって「できる」ということの意味を理解する。</li> </ul>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 基本的な動作とは</li> <li>2 身体表現① (協調体操)</li> <li>3 身体表現② (基本運動1番～3番)</li> <li>4 身体表現③ (基本運動4番～6番)</li> <li>5 マットを用いた運動遊び① (ねころんで、とぶ、はねる、いろいろな遊び)</li> <li>6 マットを用いた運動遊び② (ころがる、まわる)</li> <li>7 側転の練習と評価</li> <li>8 跳び箱を用いた運動遊び① (横跳び越し)</li> <li>9 跳び箱を用いた運動遊び② (台上前転他)</li> <li>10 跳び箱を用いた運動遊び③ (開脚跳び他)</li> <li>11 ボールで遊ぶ</li> <li>12 短縄遊び (リズム跳び)</li> <li>13 短縄跳びの練習と評価</li> <li>14 長縄跳びの基本</li> <li>15 2本の縄を用いた長縄跳び</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>実技のできる服装を着用し、内履きのシューズに履き替えて授業に参加すること。また、熱中症予防に飲物を持参して良い。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>実技テスト(協調体操、側転、跳び箱(横跳び越し・台上前転・開脚跳び)短縄リズム跳び)、授業の参加態度等を重視し、総合的に評価する。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
言語表現	専門教育	1年次前期	演習	1	錦 恵美子	『絵本はともだち』 1,785円 中村 稔子 著 福音館書店
<p>[授業の概要]</p> <p>子どもは満1歳の誕生日を迎えたころにはじめて、大人が理解できる言葉を発しはじめるといわれています。また3歳前後には爆発的に言葉を覚えます。幼児期大人たちのたくさんの心のこもった語りかけが欠かせません。子どもたちは周りの大人たちの言葉を耳にすることで愛情を感じ、言葉の楽しさ、面白さを知り、感覚を育てていきます。この時期絵本の役割は重要です。絵本は豊かな言葉の宝庫だからです。</p> <p>絵本を保育の中でどのように活用したらよいか、子どもの成長にふさわしい絵本はどんなものがあるのか、子どもは言葉を習得して豊かな想像力を育み、人間らしい心を育てていきます。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>○物語り体験を通して読書の楽しみを習得する。 ○発達段階に応じたふさわしい絵本の理解。 ○聞く力を養い、読書力のある本好きな人に育てる。</p>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 絵本とは何か</li> <li>2 わらべうた(日本)とマザーグース</li> <li>3 絵本の与え方 絵本をどんなふうに読んだらいいのか 実習</li> <li>4 絵本の選び方</li> <li>5 絵本の歴史 イギリス・アメリカ・日本</li> <li>6 子どもの成長とともに 赤ちゃん絵本</li> <li>7 2歳ごろの絵本</li> <li>8 3歳ごろの絵本</li> <li>9 4歳ごろの絵本</li> <li>10 5歳ごろの絵本</li> <li>11 6歳ごろの絵本</li> <li>12 科学絵本</li> <li>13 同じ物語の絵本の比較論</li> <li>14 絵本の延長にある子どもの読書について</li> <li>15 まとめ</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>テキストをよく読んで子どもに絵本を読んでやるということはどんな意味を持つのか、考えてほしい。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>レポート提出、実習の取りくみなどを評価対象とします。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
保育・教職実践演習	専門教育	1年次 後 期 2年次 通 年	演 習	3	専 任 吉 田 遠 藤	保育・教職実践演習 ・(卒業研究)のしおり ・カルテ
<p>〔授業の概要〕</p> <p>本授業は、保育者として最小限必要な資質能力を身につけることをねらいとしている。将来保育者になる上で自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能等を補い定着が図られるよう、ロールプレイング、グループ討議、事例研究、現地調査、模擬授業などの方法を用いて授業を構成する。1年次半期にわたる複数教員による事前指導の後、自己の課題を見出し、研究テーマとして取り組む。研究テーマに応じてゼミを編成し2年次には複数教員による指導と学生の個別－相互学習により研究成果を発表する。</p>						
<p>〔授業科目の到達目標〕</p> <p>① 使命感や責任感、教育的愛情 ② 社会性や対人関係能力 ③ 幼児理解や学級経営 ④ 保育内容や指導力</p> <p>これらの4つの能力を卒業研究を通して身につける。</p>						
<p>〔授業の計画・内容〕</p> <p>第1回            オリエンテーション・保育・教職実践演習カルテの記入(1) 第2回～第13回 自己課題設定(研究テーマ)に向けた個別相談及び計画の立案 第14回          全体口頭発表(テーマ報告会)(1) 第15回          全体口頭発表(テーマ報告会)(2) 第16回～第29回 自己課題解決への取り組み(1) 第30回          全体中間口頭発表(中間発表会) 第31回～第43回 自己課題解決への取り組み(2) 第44回          保育・教職実践演習のカルテの記入(2) 第45回          研究成果提出 全体発表</p>						
<p>〔学習上の留意点及び準備等〕</p> <p>ゼミ担当の教員と履修カルテの記入を通して自分の学習成果をチェックしながら、保育者としての能力を身につける。</p> <p>保育・教職実践演習(卒業研究)のしおりを常備する。</p>						
<p>〔成績評価方法と評価基準〕</p> <p>研究成果をまとめるにあたり、3回の発表会(テーマ報告会、中間発表会、卒業研究発表会)の内容と研究成果を保育・教職実践演習担当教員が評価する。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
子ども・子育て支援論	専門教育	1年次後期	講 義	2	福原 英起 永井裕紀子 岡田かほる 植木 信一	配布プリント
<p>〔授業の概要〕</p> <p>日本の人口の減少と共に少子化が進んでいる。その背景として結婚、出産、子育ての希望が思うようにはかなわない社会環境の変化や、他の先進国と比較して低い子育て関連予算の問題が指摘されている。また近年における核家族の増加やコミュニティ意識の希薄化などにより、子育て家庭が地域の中で孤立し、子育ての負担感が増大している中、子育てに関する問題も大きくクローズアップされている。親の就労状況や家庭の状況に関わらず、すべての子どもが等しく質の高い学校教育・保育を受けることができる環境整備が求められている。</p> <p>こうした状況に対応するため「子ども・子育て支援新制度」が制定され、平成27年度より本格施行された。この制度が施行されたことで安心して子どもを産み育てていくことへの保護者支援や子どもの教育・保育はどのように変わるのか。また、子どもの育ちや親を支える保育者にはどのようなことが求められてくるのか。新制度に対する理解を深めてもらいたい。</p>						
<p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 少子化対策から子ども・子育て支援策への変遷について理解する。</li> <li>2. 人口減少の背景・現状と国民の意識について理解する。</li> <li>3. 少子化問題に対する諸外国の施策について理解する。</li> <li>4. 母子保健の歩みとこれからのあり方について理解する。</li> <li>5. 子育て支援に求める親のニーズを理解する。</li> <li>6. 親のニーズに対する具体的な施策の内容と展開について理解する。</li> </ol>						
<p>〔授業の計画・内容〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 子ども・子育て支援新制度の背景と概要</li> <li>2. 人口減少の背景・現状とその影響（経済、地域社会、社会保障、財政）について</li> <li>3. 人口減少社会における国民の意識の変化と合計特殊出生率の低下について</li> <li>4. 少子化対策から子ども・子育て支援策への施策の変化について</li> <li>5. 少子化問題に対する諸外国の施策について</li> <li>6. 母子保健の現状（衛生統計からみた現状）</li> <li>7. 母子保健行政のあゆみ①（母子保健の歴史）</li> <li>8. 母子保健行政のあゆみ②（母子保健法の施策・少子化社会における母子保健）</li> <li>9. 21世紀の母子保健とは～健やか親子21（2次）の取組み</li> <li>10. 子育て支援に求める親のニーズ</li> <li>11. 学校教育・保育施設に求める親のニーズ</li> <li>12. 親のニーズに対する具体的な施策の内容と展開①（認定子ども園・ファミリーサポートセンター等）</li> <li>13. 親のニーズに対する具体的な施策の内容と展開②（地域型保育・病児・病後児保育等）</li> <li>14. 子ども・子育て支援法における児童健全育成の施策</li> <li>15. 子ども・子育て支援法における児童健全育成の実際</li> </ol>						
<p>〔学習上の留意点及び準備等〕</p> <p>講義科目であるが演習を取り入れることもある。 疑問点を見つけながら、主体的に授業に参加して欲しい。</p>						
<p>〔成績評価方法と評価基準〕</p> <p>レポート・試験で判断する。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
保育相談の実際	専門教育 (演習)	2年次 後 期	演 習	1	笠井友治郎 丸田 秋男	「演習・保育と相談援助」 監修 前田 敏雄 (みらい 2,000円＋税) ※前期相談援助に使用したもの
<p>[授業の概要]</p> <p>2年前期で習得した相談援助の演習を基に更に具体的な事例を問題種別毎に学習する。 特に、現代日本における社会問題となっている児童虐待、経済的貧困、障害者の抱えている問題の状況や背景について考察を深める。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の社会問題について関心を深める。</li> <li>・児童虐待の現状と対応について理解する。</li> <li>・経済的貧困が与える影響について理解する。</li> <li>・障害者の状況について理解を深める。</li> </ul>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 概況説明</li> <li>2 事例検討の意義と方法</li> <li>3 ショート事例集1・2</li> <li>4 ショート事例集3・4</li> <li>5 児童虐待の事例</li> <li>6 児童虐待への対応 (1)</li> <li>7 児童虐待への対応 (2)</li> <li>8 児童虐待への対応 (3)</li> <li>9 DVの事例</li> <li>10 DV事例への対応</li> <li>11 障害受容の事例</li> <li>12 障害受容の事例対応</li> <li>13 登園拒否事例</li> <li>14 情緒的問題の事例</li> <li>15 まとめ(背景としての社会問題・貧困の問題等)</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・随時プリントを配布し理解を補足する。</li> <li>・学生の意見交換を通して理解を深める。</li> <li>・映像も取り入れながら理解を深める。</li> </ul>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>定期試験(レポート提出)と毎回の「授業の振り返り」を併せて評価する。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単 位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)		
保育臨床心理学	専門教育	2年次 通 年	演 習	2	佐々木宏之	「面白いほどよくわかる！ 臨床心理学」 下山晴彦 西東社		
<p>[授業の概要]</p> <p>臨床心理学とは、心理学を中心とした知識や理論を用いて、こころの問題を抱えた人や、その家族の理解と援助の方法を研究、実践する心理学の一分野である。保育園・幼稚園は、子どもたちを保育・教育する場であることに加えて、地域全体の子どもたちと保護者たちの相談機関としての役割を担い、保育士・幼稚園教諭には高い専門的な能力と責任が求められる。本演習では、保育にかかわるこころの問題と心理援助の基礎を学ぶ。</p>								
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>発達障害等の心の問題を理解する。 精神障害等の心の問題を理解する。 心理アセスメントを理解する。 心理療法を理解する。</p>								
<p>[授業の計画・内容]</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 臨床心理学 とは  2. 「適応」と「治る」ということ  3. 問題の理解Ⅰ 自閉症  4. 問題の理解Ⅱ アスペルガー障害  5. 問題の理解Ⅲ 知的障害  6. 問題の理解Ⅳ ADHD  7. 問題の理解Ⅴ 学習障害  8. 問題の理解Ⅵ 母性剥奪、育児不安  9. 問題の理解Ⅶ 虐待  10. 問題の理解Ⅷ 不安障害  11. 問題の理解Ⅸ 情緒障害  12. 問題の理解Ⅹ 人格障害  13. 問題の理解Ⅺ 気分障害  14. 問題の理解Ⅻ 統合失調症  15. 基礎理論Ⅰ フロイト </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 16. 基礎理論Ⅱ ユング  17. 基礎理論Ⅲ ロジャーズ  18. 基礎理論Ⅳ エリクソン  19. 心理アセスメントⅠ 発達検査  20. 心理アセスメントⅡ 知能の理論  21. 心理アセスメントⅢ 知能検査  22. 心理アセスメントⅣ 性格の理論  23. 心理アセスメントⅤ 質問紙法性格テスト  24. 心理アセスメントⅥ 投影法性格テスト  25. 心理療法Ⅰ クライエント中心療法  26. 心理療法Ⅱ 精神分析療法  27. 心理療法Ⅲ 認知行動療法  28. 心理療法Ⅳ 遊戯療法、箱庭療法  29. コミュニティ援助  30. まとめ </td> </tr> </table>							1. 臨床心理学 とは 2. 「適応」と「治る」ということ 3. 問題の理解Ⅰ 自閉症 4. 問題の理解Ⅱ アスペルガー障害 5. 問題の理解Ⅲ 知的障害 6. 問題の理解Ⅳ ADHD 7. 問題の理解Ⅴ 学習障害 8. 問題の理解Ⅵ 母性剥奪、育児不安 9. 問題の理解Ⅶ 虐待 10. 問題の理解Ⅷ 不安障害 11. 問題の理解Ⅸ 情緒障害 12. 問題の理解Ⅹ 人格障害 13. 問題の理解Ⅺ 気分障害 14. 問題の理解Ⅻ 統合失調症 15. 基礎理論Ⅰ フロイト	16. 基礎理論Ⅱ ユング 17. 基礎理論Ⅲ ロジャーズ 18. 基礎理論Ⅳ エリクソン 19. 心理アセスメントⅠ 発達検査 20. 心理アセスメントⅡ 知能の理論 21. 心理アセスメントⅢ 知能検査 22. 心理アセスメントⅣ 性格の理論 23. 心理アセスメントⅤ 質問紙法性格テスト 24. 心理アセスメントⅥ 投影法性格テスト 25. 心理療法Ⅰ クライエント中心療法 26. 心理療法Ⅱ 精神分析療法 27. 心理療法Ⅲ 認知行動療法 28. 心理療法Ⅳ 遊戯療法、箱庭療法 29. コミュニティ援助 30. まとめ
1. 臨床心理学 とは 2. 「適応」と「治る」ということ 3. 問題の理解Ⅰ 自閉症 4. 問題の理解Ⅱ アスペルガー障害 5. 問題の理解Ⅲ 知的障害 6. 問題の理解Ⅳ ADHD 7. 問題の理解Ⅴ 学習障害 8. 問題の理解Ⅵ 母性剥奪、育児不安 9. 問題の理解Ⅶ 虐待 10. 問題の理解Ⅷ 不安障害 11. 問題の理解Ⅸ 情緒障害 12. 問題の理解Ⅹ 人格障害 13. 問題の理解Ⅺ 気分障害 14. 問題の理解Ⅻ 統合失調症 15. 基礎理論Ⅰ フロイト	16. 基礎理論Ⅱ ユング 17. 基礎理論Ⅲ ロジャーズ 18. 基礎理論Ⅳ エリクソン 19. 心理アセスメントⅠ 発達検査 20. 心理アセスメントⅡ 知能の理論 21. 心理アセスメントⅢ 知能検査 22. 心理アセスメントⅣ 性格の理論 23. 心理アセスメントⅤ 質問紙法性格テスト 24. 心理アセスメントⅥ 投影法性格テスト 25. 心理療法Ⅰ クライエント中心療法 26. 心理療法Ⅱ 精神分析療法 27. 心理療法Ⅲ 認知行動療法 28. 心理療法Ⅳ 遊戯療法、箱庭療法 29. コミュニティ援助 30. まとめ							
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>実習等での体験と結びつけながら学習すること。</p>								
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>定期試験（筆記）を実施する。</p>								



科目	種別	開講時期	授業形態	単位	担当者	テキスト(書名・著者・出版社等)
子どもの保健実習	専門教育	2年次後期	演習	1	岡田かほる	子どもの保健Ⅰ、Ⅱと同様のテキスト 適宜プリント配布
<p>[授業の概要]</p> <p>本授業は子どもの保健Ⅰ、Ⅱで学んだことに基づき、子どもの健康生活支援や感染・事故防止についてさらに具体的に学ぶ。 また子どもの身近な存在である保育者の健康管理について理解する。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>健康増進、感染・事故防止の適切な対応について具体的に学ぶ。</li> <li>施設における子どもの健康及び安全の実施体制について理解する。</li> </ol>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>保育者の健康管理を考える。</li> <li>熱中症予防対策を考える、脱水時の補液の作り方</li> <li>身体発育の評価をする。</li> <li>精神発達を評価する。(1) 1.6歳、3歳児の言語、情緒、社会性の発達のチェックポイントと観察力を高める</li> <li>精神発達を評価する。(2) M-CHATの活用方法について</li> <li>身体の清潔、沐浴、座浴(実習)</li> <li>罨法・温罨法、冷罨法の実際、オブラートの使い方(実習)</li> <li>包帯法 三角巾の使い方(1) 基本的な取り扱い、腕、下肢の包帯法</li> <li>包帯法 三角巾の使い方(2) 肩、頭、手、足の包帯法</li> <li>包帯法 湿潤療法の実際、</li> <li>感染防止(1) 予防接種計画を立てる。</li> <li>感染防止(2) 保護者、子どもへの手洗い指導を考える</li> <li>日常的な事故、災害、危機管理(1) 日常の事故防止、事故予知能力を高めるには。</li> <li>日常的な事故、災害、危機管理(2) 避難訓練の指導、教育を子どもの視点で考えてみる。</li> <li>日常的な事故、災害、危機管理(3) 施設の安全管理を考える。</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>授業はグループ討議や実習の形態をとっている。 グループ討議がスムーズに展開するように、課題の事前学習の実施や当日の話し合いなど、協力的な態度を希望する。 授業の内容は1回限りであるため、欠席は『気付きができない。』『体験ができない。』ことになるので、遅刻、欠席のないように心がけて下さい。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>グループ討議や実習を通して、認識や技術を深めるものであることを考慮し、レポート20%・定期試験80%で評価する。</p>						



科 目	種 別	開講時期	授業形態	単 位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)		
保育内容総論Ⅱ	専門教育	2年次 通 年	演 習	2	久保田真規子	・保育の道をめざす人へのアドバイス (みらい) ・子どもが育つ運動遊び (みらい)		
<p>[授業の概要]</p> <p>保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、保育の理論と実践の統合を目指します。また、受講生が自分の実習計画を立案・実践し、反省・考察を繰り返すことを通して、教材研究や技術の取得、記録の方法を学びます。</p> <p>そして何よりも子どもや保育を観る視点を育み、保育実践に磨きをかけることを目標にします。</p>								
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所・幼稚園の実際に関心を持ち、発達・生活についての専門的知識を身につける。</li> <li>2. 保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育のねらい、子どもの発達、保育内容の基本を学ぶ。</li> <li>3. 保育内容と保育計画の基本を学び、保育者の役割や現代の保育課題・自分の課題をつかむ。</li> <li>4. 保育の多様な展開について関心をもち学ぶ。</li> </ol>								
<p>[授業の計画・内容]</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 子ども・子育て支援新制度と保育の基本</li> <li>3. 乳児・幼児の園生活と保育内容</li> <li>4. 3歳児～5歳児の園生活と保育内容 (造形)</li> <li>5. 3歳児～5歳児の園生活と保育内容 (運動)</li> <li>6. 3歳児～5歳児の園生活と保育内容 (表現など)</li> <li>7. 特別な配慮を要する子どもたちへの保育内容</li> <li>8. 総合的な活動とは</li> <li>9. 人的環境・物的環境の役割</li> <li>10. 保育内容を深める遊び・文化財 (1)</li> <li>11. 保育内容を深める遊び・文化財 (2)</li> <li>12. 保育内容の課題と展望</li> <li>13. 保育現場からのメッセージ</li> <li>14. 保育を振り返り考察するということ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. 実習事前指導</li> <li>17. 幼稚園実習について語ろう</li> <li>18. 事例検討会</li> <li>19. 3歳児の園生活と保育内容</li> <li>20. 4歳児の園生活と保育内容</li> <li>21. 5歳児の園生活と保育内容</li> <li>22. 特別支援としての保育内容の実際</li> <li>23. 園生活と遊びから学ぶ子どもの生きる力</li> <li>24. 環境から遊び・生活を振り返る</li> <li>25. 保育内容の計画・立案・実践・考察</li> <li>26. 特色ある保育内容と実践①</li> <li>27. 特色ある保育内容と実践②</li> <li>28. 特色ある保育内容と実践③</li> <li>29. インクルーシブ教育について</li> <li>30. まとめ</li> </ol> </td> </tr> </table>							<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 子ども・子育て支援新制度と保育の基本</li> <li>3. 乳児・幼児の園生活と保育内容</li> <li>4. 3歳児～5歳児の園生活と保育内容 (造形)</li> <li>5. 3歳児～5歳児の園生活と保育内容 (運動)</li> <li>6. 3歳児～5歳児の園生活と保育内容 (表現など)</li> <li>7. 特別な配慮を要する子どもたちへの保育内容</li> <li>8. 総合的な活動とは</li> <li>9. 人的環境・物的環境の役割</li> <li>10. 保育内容を深める遊び・文化財 (1)</li> <li>11. 保育内容を深める遊び・文化財 (2)</li> <li>12. 保育内容の課題と展望</li> <li>13. 保育現場からのメッセージ</li> <li>14. 保育を振り返り考察するということ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 実習事前指導</li> <li>17. 幼稚園実習について語ろう</li> <li>18. 事例検討会</li> <li>19. 3歳児の園生活と保育内容</li> <li>20. 4歳児の園生活と保育内容</li> <li>21. 5歳児の園生活と保育内容</li> <li>22. 特別支援としての保育内容の実際</li> <li>23. 園生活と遊びから学ぶ子どもの生きる力</li> <li>24. 環境から遊び・生活を振り返る</li> <li>25. 保育内容の計画・立案・実践・考察</li> <li>26. 特色ある保育内容と実践①</li> <li>27. 特色ある保育内容と実践②</li> <li>28. 特色ある保育内容と実践③</li> <li>29. インクルーシブ教育について</li> <li>30. まとめ</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 子ども・子育て支援新制度と保育の基本</li> <li>3. 乳児・幼児の園生活と保育内容</li> <li>4. 3歳児～5歳児の園生活と保育内容 (造形)</li> <li>5. 3歳児～5歳児の園生活と保育内容 (運動)</li> <li>6. 3歳児～5歳児の園生活と保育内容 (表現など)</li> <li>7. 特別な配慮を要する子どもたちへの保育内容</li> <li>8. 総合的な活動とは</li> <li>9. 人的環境・物的環境の役割</li> <li>10. 保育内容を深める遊び・文化財 (1)</li> <li>11. 保育内容を深める遊び・文化財 (2)</li> <li>12. 保育内容の課題と展望</li> <li>13. 保育現場からのメッセージ</li> <li>14. 保育を振り返り考察するということ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 実習事前指導</li> <li>17. 幼稚園実習について語ろう</li> <li>18. 事例検討会</li> <li>19. 3歳児の園生活と保育内容</li> <li>20. 4歳児の園生活と保育内容</li> <li>21. 5歳児の園生活と保育内容</li> <li>22. 特別支援としての保育内容の実際</li> <li>23. 園生活と遊びから学ぶ子どもの生きる力</li> <li>24. 環境から遊び・生活を振り返る</li> <li>25. 保育内容の計画・立案・実践・考察</li> <li>26. 特色ある保育内容と実践①</li> <li>27. 特色ある保育内容と実践②</li> <li>28. 特色ある保育内容と実践③</li> <li>29. インクルーシブ教育について</li> <li>30. まとめ</li> </ol>							
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>グループディスカッション・ロールプレーイング・感想カードを活用していく。 授業で配布するプリントの熟読・資料のファイリングを行う。</p>								
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>授業への取り組み姿勢、提出物で総合的に判断する。</p> <p>指導案立案に関しては、子どもの発達を考慮し、時間を十分かけて取り組むこと。 グループディスカッション、提出物等により総合的に評価する。 指導案の立案・実践・振り返りなどの提出物・演習も評価の対象となる。</p>								

科目	種別	開講時期	授業形態	単位	担当者	テキスト(書名・著者・出版社等)		
乳児保育Ⅱ	専門教育	2年次 通年	演習	2	藤島由美子	「乳児の生活と保育」 2,100円+税 松本園子 他 編著 ななみ書房		
<p>[授業の概要]</p> <p>乳児は、日々著しいスピードで発達し、昨日できなかった事が今日にはできることも有る。一人ひとりの子どもの発達を保障することが乳児保育の本質といっても過言ではない。すなわち子どもの身体と心の奥底からわき出る、成長の欲求をしっかり受け止めて、子どもが主体的に遊び、意欲的に生活する環境づくりと、一人ひとりに応じた適切な援助が保育者に求められる。乳幼児の発達を深く理解し、それぞれの育ちにきめ細かく応える力を身につける。また、子育て機関との連携、保護者との連携や支援などについて学ぶ。</p>								
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児保育の理念と歴史の変遷について学ぶ。</li> <li>・乳児保育の現状と課題について学ぶ。</li> <li>・3歳児未満の発育・発達について学び、健やかな成長を支える生活と遊びについて理解する。</li> <li>・乳児保育の計画を作成し、保育内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。</li> <li>・乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。</li> </ul>								
<p>[授業の計画・内容]</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p><b>乳児保育の理念と役割</b></p> <p>1 乳児保育の理念と歴史の変遷</p> <p>2 乳児保育の役割と機能</p> <p><b>乳児保育の課題と現状</b></p> <p>3 保育所における乳児保育の課題と現状 乳児院における乳児保育の     " 家庭的保育等における乳児保育の     "</p> <p>4 乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 地域の子育て機関及び連携について これからの子育て支援について</p> <p><b>2歳児までの発達と保育内容(遊びと育ち)</b></p> <p>5 乳児期の発達を理解する基本的視点</p> <p>6 乳児期の発達の特徴と課題</p> <p>7 6か月未満児の発達と保育内容</p> <p>8 6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容</p> <p>9 1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容</p> <p>10 2歳児の発達と保育内容</p> <p>11 発達にそくした遊びと手づくりおもちゃ</p> <p>12 発達にそくした絵本・わらべ歌</p> <p>13 健康安全管理</p> <p>14     "                    事故防止について</p> <p>15 まとめ</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p><b>乳児保育の実際</b></p> <p>16 保育課程における指導計画の作成と観察及び自己評価 乳児の指導計画作成の重要ポイント 次の保育に生かす計画・実践・反省・評価(記録)の循環について</p> <p>17 0歳児の指導計画の作成、経過記録のとり方</p> <p>18 1歳児の指導計画の作成、経過記録のとり方</p> <p>19 2歳児の指導計画の作成、経過記録のとり方</p> <p>20 実際の指導計画及び経過記録から学ぶ①</p> <p>21 実際の指導計画及び経過記録から学ぶ②</p> <p>22 職員間の協働</p> <p><b>乳児保育における連携</b></p> <p>23 保護者とのパートナーシップについて 保護者を取り巻く状況及び支援</p> <p>24 日常的な保護者への支援</p> <p>25 少し困難な問題を抱えた保護者への支援</p> <p>26 相談支援の実習①</p> <p>27 相談支援の実習②</p> <p>28 発達相談支援(乳児の発達障害について)</p> <p>29 乳児保育の質の向上について</p> <p>30 まとめ</p> </td> </tr> </table>							<p><b>乳児保育の理念と役割</b></p> <p>1 乳児保育の理念と歴史の変遷</p> <p>2 乳児保育の役割と機能</p> <p><b>乳児保育の課題と現状</b></p> <p>3 保育所における乳児保育の課題と現状 乳児院における乳児保育の     " 家庭的保育等における乳児保育の     "</p> <p>4 乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 地域の子育て機関及び連携について これからの子育て支援について</p> <p><b>2歳児までの発達と保育内容(遊びと育ち)</b></p> <p>5 乳児期の発達を理解する基本的視点</p> <p>6 乳児期の発達の特徴と課題</p> <p>7 6か月未満児の発達と保育内容</p> <p>8 6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容</p> <p>9 1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容</p> <p>10 2歳児の発達と保育内容</p> <p>11 発達にそくした遊びと手づくりおもちゃ</p> <p>12 発達にそくした絵本・わらべ歌</p> <p>13 健康安全管理</p> <p>14     "                    事故防止について</p> <p>15 まとめ</p>	<p><b>乳児保育の実際</b></p> <p>16 保育課程における指導計画の作成と観察及び自己評価 乳児の指導計画作成の重要ポイント 次の保育に生かす計画・実践・反省・評価(記録)の循環について</p> <p>17 0歳児の指導計画の作成、経過記録のとり方</p> <p>18 1歳児の指導計画の作成、経過記録のとり方</p> <p>19 2歳児の指導計画の作成、経過記録のとり方</p> <p>20 実際の指導計画及び経過記録から学ぶ①</p> <p>21 実際の指導計画及び経過記録から学ぶ②</p> <p>22 職員間の協働</p> <p><b>乳児保育における連携</b></p> <p>23 保護者とのパートナーシップについて 保護者を取り巻く状況及び支援</p> <p>24 日常的な保護者への支援</p> <p>25 少し困難な問題を抱えた保護者への支援</p> <p>26 相談支援の実習①</p> <p>27 相談支援の実習②</p> <p>28 発達相談支援(乳児の発達障害について)</p> <p>29 乳児保育の質の向上について</p> <p>30 まとめ</p>
<p><b>乳児保育の理念と役割</b></p> <p>1 乳児保育の理念と歴史の変遷</p> <p>2 乳児保育の役割と機能</p> <p><b>乳児保育の課題と現状</b></p> <p>3 保育所における乳児保育の課題と現状 乳児院における乳児保育の     " 家庭的保育等における乳児保育の     "</p> <p>4 乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 地域の子育て機関及び連携について これからの子育て支援について</p> <p><b>2歳児までの発達と保育内容(遊びと育ち)</b></p> <p>5 乳児期の発達を理解する基本的視点</p> <p>6 乳児期の発達の特徴と課題</p> <p>7 6か月未満児の発達と保育内容</p> <p>8 6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容</p> <p>9 1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容</p> <p>10 2歳児の発達と保育内容</p> <p>11 発達にそくした遊びと手づくりおもちゃ</p> <p>12 発達にそくした絵本・わらべ歌</p> <p>13 健康安全管理</p> <p>14     "                    事故防止について</p> <p>15 まとめ</p>	<p><b>乳児保育の実際</b></p> <p>16 保育課程における指導計画の作成と観察及び自己評価 乳児の指導計画作成の重要ポイント 次の保育に生かす計画・実践・反省・評価(記録)の循環について</p> <p>17 0歳児の指導計画の作成、経過記録のとり方</p> <p>18 1歳児の指導計画の作成、経過記録のとり方</p> <p>19 2歳児の指導計画の作成、経過記録のとり方</p> <p>20 実際の指導計画及び経過記録から学ぶ①</p> <p>21 実際の指導計画及び経過記録から学ぶ②</p> <p>22 職員間の協働</p> <p><b>乳児保育における連携</b></p> <p>23 保護者とのパートナーシップについて 保護者を取り巻く状況及び支援</p> <p>24 日常的な保護者への支援</p> <p>25 少し困難な問題を抱えた保護者への支援</p> <p>26 相談支援の実習①</p> <p>27 相談支援の実習②</p> <p>28 発達相談支援(乳児の発達障害について)</p> <p>29 乳児保育の質の向上について</p> <p>30 まとめ</p>							
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で配布するプリントは必ず目を通す。</li> <li>・新たな保育情報に常に関心を持ち、授業の内容理解に生かす。</li> <li>・参考書等を利用し、積極的に学習を進める。</li> </ul>								
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>定期試験(50%) 授業態度(30%) 提出物・配布物の管理等(20%)</p>								

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単 位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
表現活動指導法	専門教育	1年次 後期・集中 2年次 前 期	演 習	3	坂内 寿子 村木 薫 斎藤 童夫 中島 孝子 吉田 裕子	資料を配付
<p>[授業の概要]</p> <p>演習課題1ではグループ単位で子どものための鑑賞教材としての視点から、素材（合唱・合奏・オペレッタ・ペープサート・紙芝居・手品等）を選定し、作品を制作することにより自らの表現について考えるものである。</p> <p>演習課題2では履修者全員で1つのミュージカル作品を共同制作し、その脚本づくりやロール・プレイングを通じて幼児の心性に係る知識理解を深めるとともに、洗練された表現技法の習熟を図り、保育者としての実践的指導力を高めようとするものである。</p> <p>なお、制作するミュージカル作品の題材は、日本及び世界の昔話・童話・伝説のうちから幼児になじむものを選ぶことにしている。</p> <p>指導形態は5名の教員が、一斉授業とグループワークを併用して授業を展開する。完成した作品は、これを地域社会に発表し、評価を仰ぐことにしている。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ単位で子どものための鑑賞教材を選定し、制作することにより自らの表現について考える。</li> <li>・ミュージカルの役柄に応じた表現力を身につける。</li> <li>・保育者に必要な表現力とその指導法を身につける。</li> <li>・ミュージカル練習や一人一役の係活動を通じて自主性、責任感、協調性、コミュニケーション能力、問題解決能力を身につける。</li> </ul>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション ミュージカル台本配布</li> <li>2 オーディションの内容の提示、歌の練習</li> <li>3 オーディション用ダンスの練習①（全体）</li> <li>4 オーディション用ダンスの練習② （グループ単位）</li> <li>5 オーディションの実施（前半）</li> <li>6 オーディションの実施（後半）</li> <li>7 プログラムの編成、グループ活動</li> <li>8 演習課題グループ活動①</li> <li>9 演習課題グループ活動②</li> <li>10 演習課題グループ活動③</li> </ol>					<ol style="list-style-type: none"> <li>11 VTR鑑賞 演習課題1のまとめ</li> <li>12 オーディションの結果発表、音楽を付けて台本の読み合わせ</li> <li>13 係活動</li> <li>14～45 歌唱練習、シーン別練習、ダンスの創作 （パート・キャスト別）</li> <li>46 レポート提出、舞台発表のまとめ</li> <li>47 係別記録ノートのまとめ、提出、解散式</li> </ol>	
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>授業はアップホールだけでなく様々な教室で行われる。練習計画表等の配付物は保管し時間帯や練習内容に留意して行動すること。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>レポートの提出、発表及び授業への参加態度・姿勢（練習・係活動）等を総合評価する。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
ピアノ表現Ⅱ	専門教育	2年次 通年	演習	2	斎藤 竜夫 他	幼児のための音楽教育 教育芸術社 2,100円 歌唱教材伴奏法 教育芸術社 1,600円
<p>[授業の概要]</p> <p>一年次のピアノ表現Ⅰを踏まえた上で、より高度なピアノの演奏法を学ぶ。受講生個々の進度に合わせた個人レッスンに加えて、即興的な伴奏法を修得するグループレッスンならびにコード奏法の仕組み等、理論学習も併用して行う。単に楽譜を弾き表すだけでなく、その場の雰囲気や子どもたちの反応によって、臨機応変に音楽を作り出す即興力、応用力を身につける。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・弾き歌いに親しむこと</li> <li>・子どもの歌のレパートリーの拡大</li> <li>・本学グレード試験取得(弾き歌い8級・課題曲8級)</li> </ul>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <p>I 個人レッスン 1対1の個人レッスンによってピアノの演奏技術の体得ならびに向上を目指す。 学生は担当教員と相談のうえ、進度に合わせてバイエル・ツェルニー・ソナチネ・インヴェンション等を教材として学ぶ。</p> <p>II グループワーク(音楽理論) 基本的な音楽理論(楽典)の学習と、それをふまえてのコード理論の学習</p> <p>III グループレッスン(弾き歌い) 上記Ⅰ・Ⅱの内容を総合した弾き歌いの実践として、実際の保育現場において需要の高い曲を実習する</p> <p>1コマ90分を前半と後半に分けて授業をおこなう。A組は前半個人レッスン・後半は2組に分かれてグループワークとグループレッスンを行う。B組は前半2組に分かれてグループレッスンとグループワーク、後半に個人レッスンを行う。</p>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>本演習においては授業形態の特性上、授業時前半と後半に教室移動の必要がある。学生の迅速な行動を望む。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>年5回のグレード試験、前・後期1回ずつの音楽理論の定期試験(筆記)で評価する。また授業中の演奏、その進捗状況も評価対象である。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単 位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
造形表現Ⅱ	専門教育	2年次 後 期	演 習	1	村 木 薫	造形表現Ⅰで使用した教科書
<p>[授業の概要]</p> <p>造形表現Ⅰを継承し、さらに保育環境における壁面構成や室内装飾などを考える機会とする。具体的には校舎内美化運動を兼ねたグループ別のプロジェクト制作を行う。表現する場所や空間の意味を考え、そこに新たな造形作品を提案をすることで何が変わるのか考えることを目的とする。また、様々な素材に挑戦し、自分の造形表現領域を拡げることも目的とする。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>造形表現に必要な様々な表現技術の習得。 環境構成に必要な表現技術の向上。 造形活動を通して子どもたちへの理解を深める。</p>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスを行い、学内を歩いて作品設置場所を決める</li> <li>2 各グループに分かれ課題を考えたり、テーマを考える</li> <li>3 各グループに分かれ素材研究や試作を行う①</li> <li>4 各グループに分かれ素材研究や試作を行う②</li> <li>5 各グループに分かれたテーマ別制作活動①</li> <li>6 各グループに分かれたテーマ別制作活動②</li> <li>7 中間発表会 各プロジェクトの進行状況を確認し講評を行う</li> <li>8 外国の幼児教育における造形表現の状況を紹介する(レポート課題)</li> <li>9 各グループに分かれた素材研究①</li> <li>10 各グループに分かれた素材研究②</li> <li>11 各グループに分かれたテーマ別制作活動①</li> <li>12 各グループに分かれたテーマ別制作活動②</li> <li>13 各グループに分かれたテーマ別制作活動③</li> <li>14 様々なプロジェクト制作作品を学内に設置する</li> <li>15 全体の講評会</li> </ol> <p>A 壁画を描く B 砂絵を作る C モービルを作る(軽やかな造形) D 紙粘土で物語を作る E 竹と自然素材を用いたオブジェ制作 F 木材を用いた棚制作 G ガラス絵(スタンドガラス)を描く H 写真を使った壁面構成 など作品の種類はさまざまである</p>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>授業で配布するプリントは必ず目を通す。 課題提出にあたり提出締め切りは必ず守る。 自分の制作だけではなく他の学生の作品をよく見るようにし、お互いの意見交換を行う。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>レポート 20% 制作課題 80% 計 100%</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
身体表現Ⅱ	専門教育	2年次 後 期	演 習	1	坂内 寿子	保育の中の運動遊び 石井美晴・菊地秀範 編 萌文書林 1,800円＋税
<p>[授業の概要]</p> <p>幼児期の身体発達の特徴は、神経系の発達が著しく、この時期に全身運動の刺激が不足すると不器用な子どもにしてしまう恐れがあり、いろいろな運動遊びをバランス良く経験することが重要であると言われている。</p> <p>本授業は遊びの面白さが子どもの心を揺り動かし、それがふだんの遊びの中にも自発的に取り入れられて、さらに子どもたちの努力や時には工夫も盛り込まれて発展していくような援助とは何かを探る。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動遊びの意義について理解する。</li> <li>・様々な動作の体験に留意し、手作り道具や廃材を用いて運動遊びを創作する手法を身につける。</li> <li>・活発な遊びに危険が伴うことについて保育者として自分の考えを持つ。</li> </ul>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、ダンスの創作</li> <li>2 鬼遊び</li> <li>3 戸外の遊び① 固定遊具で遊ぶ</li> <li>4 新聞紙を使った遊び① (遊びの創作)</li> <li>5 新聞紙を使った遊び② (遊びの提案)</li> <li>6 ダンボールを素材にした手作り遊具を使ったボール遊び① (遊びの創作)</li> <li>7 ダンボールを素材にした手作り遊具を使ったボール遊び② (遊びの提案)</li> <li>8 ビニールホースを素材にした手作り遊具を使った遊び① (遊びの創作)</li> <li>9 ビニールホースを素材にした手作り遊具を使った遊び② (遊びの提案)</li> <li>10 ゴムひもを使った遊び</li> <li>11 長縄遊び</li> <li>12 オペレッタ『がんばれねずみのお手伝い』① 保育者としての援助の在り方</li> <li>13 オペレッタ『がんばれねずみのお手伝い』② 役に応じた身体表現</li> <li>14 オペレッタ『がんばれねずみのお手伝い』③ 実演</li> <li>15 授業のふり返り</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>実技のできる服装を着用し、内履きシューズに履き替えて授業に参加すること。また、体育館だけでなくアップホール、ビデオ視聴用の教室も使用しながら授業を行うので、連絡掲示板を忘れず確認すること。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>定期試験(筆記)、課題レポート、授業の参加態度等を重視し、総合評価する。</p>						



科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
レクリエーション 実習Ⅰ	専門教育 科 目	1年次 後 期	演 習	1	坂内 寿子 中島 孝子	レクリエーション支援の基礎 (財)日本レクリエーション協会 編集・出版 2,100円
<p>〔授業の概要〕</p> <p>レクリエーションは健康づくりや高齢者・障害者福祉、子育て支援、保育、教育、地域づくり、環境教育など、幅広い領域で用いられている。</p> <p>本授業は遊び（レクリエーション）を展開する上で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象としたレクリエーション・ワークの技術を身につけることにより、保育者としての援助力を高めることを目的としている。</p> <p>この科目はレクリエーションインストラクター資格取得のための必修科目である。</p>						
<p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーションにおけるホスピタリティについて理解する。</li> <li>・一体感、安心感を提供するためのアイスブレイキングの基礎技術を習得する。</li> <li>・支援の目的にふさわしい遊びの展開法を習得する。</li> </ul>						
<p>〔授業の計画・内容〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ホスピタリティとは（1対1、小集団、集団）</li> <li>2 アイスブレイキングの意義と基本技術（一体感、安心感の提供）</li> <li>3 アイスブレイキングのプログラミング①（プログラミングの原則）</li> <li>4 アイスブレイキングのプログラミング②（子育て支援・子どもの健全育成の現場実践例）</li> <li>5 目的に合わせたレクリエーション・ワーク （遊びや体験の中での主体性や協調性の芽生えを目指したプログラム）</li> <li>6 「素材・アクティビティ」の選択</li> <li>7 「素材・アクティビティ」の提供（ハードル設定）</li> <li>8 「素材・アクティビティ」の提供（CSSプロセス）</li> <li>9 対象に合わせたレクリエーション・ワークとは</li> <li>10 対象に合わせたレクリエーション・ワークでのアレンジ</li> <li>11 指導演習①（指導案の作成及び実践：第1グループの発表）</li> <li>12 指導演習②（指導案の作成及び実践：第2グループの発表）</li> <li>13 指導演習③（指導案の作成及び実践：第3グループの発表）</li> <li>14 指導演習④（指導案の作成及び実践：第4グループの発表）</li> <li>15 指導演習⑤（指導案の作成及び実践：第5グループの発表）</li> </ol>						
<p>〔学習上の留意点及び準備等〕</p> <p>受け身ではなく、自分から他者と積極的に関わること。</p> <p>指定された様式のノートに各授業終了後、毎回記入しファイルしておくこと。</p>						
<p>〔成績評価方法と評価基準〕</p> <p>課題（指導案）の記入内容（20%）指導演習状況（50%）授業の参加態度（30%）</p>						

科目	種別	開講時期	授業形態	単位	担当者	テキスト(書名・著者・出版社等)
保育実習Ⅰ (施設)	専門科目	2年次 前期	実習	2	笠井友治郎 福原英起	
<p>[授業の概要]</p> <p>「保育実習Ⅰ(施設)」は、保育士資格取得を目指す学生の必修科目で、保育所以外の施設の実習であり、将来、施設での就職を視野に入れている学生も存在していると思われる。</p> <p>1年次で修得した「社会福祉」、「社会的養護Ⅰ」、「児童家庭福祉」、「社会的養護内容」等の福祉関連科目で学んだ知識を、実習を通して深めることを目的とする。</p> <p>とくに、この実習で初めて障害児・者に接するという学生も少なくない。そのため、1年次で障害について学習したにも拘らず、障害児・者に対する偏見や先入観等のマイナスイメージを払拭できないまま実習に入ってしまうことが非常に多い。そのため、事後指導では、実習前のマイナスイメージが実習に行ってみてどのように変化したのか、またそれは何故か、そして、施設の抱えている問題点、職員の抱えている問題点等の認識を深化させながら自己覚知の機会としたい。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>児童福祉施設(保育所以外)について理解する。 利用者について理解する。 制度・政策について理解する。 自己課題を明確にする。 施設の今後の課題と展望について理解する。</p>						
<p>[授業の計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 施設の生活と一日の流れ</li> <li>(2) 施設の役割と機能</li> </ol> </li> <li>2. 子ども理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの観察とその記録</li> <li>(2) 個々の状況に応じた援助や関わり</li> </ol> </li> <li>3. 養護内容・生活環境 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 計画に基づく活動や援助</li> <li>(2) 子どもの心身の状態に応じた対応</li> <li>(3) 子どもの活動と生活の環境</li> <li>(4) 健康管理、安全対策の理解</li> </ol> </li> <li>4. 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 支援計画の理解と活用</li> <li>(2) 記録に基づく省察・自己評価</li> </ol> </li> <li>5. 専門職としての保育士の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育士の業務内容</li> <li>(2) 職員間の役割分担や連携</li> <li>(3) 保育士の役割と職業倫理</li> </ol> </li> </ol>						
<p>[評価方法]</p> <p>実習施設での評価、巡回指導教員からの報告、実習日誌の記録内容、各種提出物、出席状況等を総合して評価する。</p>						
<p>[授業方法]</p> <p>居住型児童福祉施設等及び障害児・者通所施設等における11日以上の実習により行う。</p>						



科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
保育実習 I (保育所)	専門教育	1 年次 後 期	実 習	2	永井裕紀子 松延 毅	特になし
<p>[授業の概要]</p> <p>保育所の役割と機能について理解する。          子どもの発達過程と保育者の関わりについて理解する。          子どもの発達に応じた保育内容について理解する。          保育記録の方法や内容を理解する。          保育士の役割と職業倫理について理解する。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>保育所の一日の流れや役割・機能について理解する。          乳幼児の発達と保育内容について理解を深める。          保育士の職務内容について学ぶ。          保育技術や保育記録の方法について実践的に学ぶ。          保育士を志す者としての自覚を高める。</p>						
<p>[実習内容]</p> <p>1 保育所の役割と機能          (1) 保育所の生活と一日の流れ          (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開</p> <p>2 子ども理解          (1) 子どもの観察とその記録による理解          (2) 子どもの発達過程の理解          (3) 子どもへの援助やかかわり</p> <p>3 保育内容・保育環境          (1) 保育の計画に基づく保育内容          (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容          (3) 子どもの生活と遊びや保育環境          (4) 子どもの健康と安全</p> <p>4 保育の計画、観察、記録          (1) 保育過程と指導計画の理解          (2) 記録に基づく省察・自己評価</p> <p>5 専門職としての保育士の役割と職業倫理          (1) 保育士の役割と職業倫理</p>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>保育園の保育方針を尊重し、実習施設長および担当職員の指示に従って行動すること。          実習中に知り得た秘密を漏らさないこと。          子どもの安全に留意して実習すること。          事前指導での指示や注意事項を遵守すること。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>巡回指導教員からの報告、園からの評価、実習日誌を総合して評価する。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
保育実習指導 I (施設)	専門科目	2年次 前期	演 習	1	笠井友治郎 福原 英起	『保育士養成課程 四訂 福祉施設実習ハンドブック』 岡本幹彦、神戸賢次、喜多一憲、 児玉俊郎編 みらい 2,000円＋税 随時プリント配付
<p>[授業の概要]</p> <p>「保育実習 I (施設)」は、保育士資格取得を目指す学生の必修科目で、保育所以外の施設の実習であり、将来、施設での就職を視野に入れている学生も存在していると思われる。</p> <p>1年次で修得した「社会福祉」、「社会的養護 I」、「児童家庭福祉」、「社会的養護内容」等の福祉関連科目で学んだ知識を、実習を通して深めることを目的とする。</p> <p>とくに、この実習で初めて障害児・者に接するという学生も少なくない。そのため、1年次で障害について学習したにも拘らず、障害児・者に対する偏見や先入観等のマイナスイメージを払拭できないまま実習に入ってしまうことが非常に多い。そのため、事後指導では、実習前のマイナスイメージが実習に行ってみてどのように変化したのか、またそれは何故か、そして、施設の抱えている問題点、職員の抱えている問題点等の認識を深化させながら自己覚知の機会としたい。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>児童福祉施設（保育所以外）について理解する。 利用者について理解する。 制度・政策について理解する。 自己課題を明確にする。 施設の今後の課題と展望について理解する。</p>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、実習先の決定</li> <li>2. 実習の意義と心構え</li> <li>3. 施設保育士の役割</li> <li>4. 福祉施設の専門職</li> <li>5. 児童福祉施設の理解 1</li> <li>6. 児童福祉施設の理解 2</li> <li>7. 児童福祉施設の理解 3</li> <li>8. 記録の意味</li> <li>9. 実習日誌の記述方法 1</li> <li>10. 実習日誌の記述方法 2</li> <li>11. 部分実習指導案作成</li> <li>12. 個別指導</li> <li>13. 事後指導 1（自己評価・反省、今後の課題のまとめ⇒グループ別指導）</li> <li>14. 事後指導 2（感想発表、自己評価に対する相互評価⇒グループ別指導）</li> <li>15. 事後指導 3（グループ討議、発表、まとめ⇒グループ別指導）</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>実習先の施設に関する情報・資料を収集し、事前学習を行う。 講義の前後には必ずテキストを読み、問題点や疑問点を明確にする。 講義と関連する新聞記事に目を通す。出来ればスクラップして感想も書いてみる。 事前・事後指導を欠席した場合には、欠席届＋欠席した授業の補足・理解の方法について、指定用紙に記入し提出すること。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>出席の状況・授業への参加態度、提出物、実習先施設評価等から総合的に判断する。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
保育実習指導 I (保育所)	専門教育	1年次 後 期	演 習	1	永井裕紀子 松延 毅	長島和代編 「保育の基本用語」わかば社 新潟中央短期大学 「実習の手引き」
<p>[授業の概要]</p> <p>保育実習は、習得した又は習得しつつある教科科目の知識や技術を基礎として、これらを有機的に関連付けながら総合的な体験学習をする場である。</p> <p>事前学習では、保育所の保育に実習生として参加することや、実習生として子どもと関わることの意味について考えながら、実習の心得について理解する。また、子どもが示す様々な姿をどのように受けとめ、保育者として子どもたちとどう関わっていけばよいのか、子どもを見る視点と保育者の援助のあり方を学びながら、それを保育記録に活かす力を養う。事後学習では、実習の総括と自己評価を行い、次回の実習への展望がもてるようにしたい。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>保育実習の意義や目的を理解する。  保育記録の方法や内容を理解する。  実習生として保育所保育に参加することの意味について考え、実習の心得を理解する。  子どもを見る視点について理解する。  実習を体験し、求められる保育者像について考え、自己の課題を明確にする。</p>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育実習 I の意義と目的・実習の流れ</li> <li>2 実習の心得・実習時期の子どもや保育の様子</li> <li>3 保育所の役割と保育所保育の特性</li> <li>4 保育を記録する・こんな時どうする?①</li> <li>5 保育を記録する・こんな時どうする?②</li> <li>6 保育を記録する・こんな時どうする?③</li> <li>7 保育を記録する・保育教材の製作①</li> <li>8 保育を記録する・保育教材の製作②</li> <li>9 保育教材を用いた実践を考えてみる</li> <li>10 手遊びの実践を考えてみる</li> <li>11 指導計画案について</li> <li>12 指導計画案を立案してみる</li> <li>13 実習オリエンテーションについて</li> <li>14 実習に関わる諸注意</li> <li>15 反省と評価・課題の整理</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>実習園によって実習の実施方法は異なる。各自が実習園の実習のあり方をよく理解し、疑問や不安については積極的に質問すること。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>課題 70%、保育実践 30%</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単 位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
保育実習Ⅱ (保育所)	専門教育	2年次 前 期	実 習	2	永井裕紀子 久保田真規子	特になし
<p>[授業の概要]</p> <p>保育実習Ⅱでは、1年次の保育所実習で学んだことを深化させることを目的としている。実習では、実習Ⅰで行った観察・参加実習に加え、実際に指導計画を立案して保育を行う責任実習(部分・全日)に取り組んでいく。責任実習を通して、保育における計画の重要性を認識するとともに、計画と実践のズレについて振り返りつつ、子どもの発達と保育者のかかわり、環境設定について総合的に学ぶ。授業としては最後の保育所実習となる。この実習を通して、保育者を目指す自分自身のあり様を省察し、保育者としての責務を自覚して欲しい。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>保育所の役割や機能を具体的に理解する。  観察や責任実習を通して、子どもや保育者の役割について理解を深める。  子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。  保育者としての自分を省察し、自己の課題を明確にする。</p>						
<p>[実習内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育所の役割や機能の具体的展開について理解を深める。</li> <li>2 子どもの保育及び保護者・家庭支援や地域社会との連携について具体的に学ぶ。</li> <li>3 延長保育などの多様な保育サービスを体験し、その必要性を理解する。</li> <li>4 保育全般に参加し、子どもや保育者の役割について理解を深める。</li> <li>5 教材研究を積極的に行い、指導計画を立案し実践する。</li> <li>6 保育計画の作成、実践、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>保育園の保育方針を尊重し、施設長および担当職員の指示に従って行動すること。  実習中に知り得た秘密を漏らさないこと。  事前指導での指示や注意事項を遵守すること。  子どもの安全に留意して実習すること。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>巡回教員からの報告、園からの評価、実習日誌を総合して評価する。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単 位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
保育実習指導Ⅱ (保育所)	専門教育	2年次 前 期	演 習	1	永井裕紀子 久保田真規子	配布プリント
<p>[授業の概要]</p> <p>保育実習Ⅱでは、保育実習Ⅰの反省、評価をもとにした問題点や課題を解決するための取り組みを行いながら、より実践的な保育実習を体験する。そのため事前学習では、子どもの発達や保育の実態にあわせた指導計画案の作成や教材について重点的に学習する。事後学習では、実習の総括と自己評価を行い、保育者としての自分を省察し、自己の課題を明確にする。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>他科目での学びを有機的に関連づけながら、子どもの発達に応じた指導計画案を立案する。保育実習Ⅱの総括と評価を行い、自己の課題と保育者としての適正を考える。</p>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者に求められるもの・先輩の実習に学ぶ (VTR)</li> <li>2. 実習時期の子どもや保育の様子</li> <li>3. 活動レポーター表の作成</li> <li>4. 指導計画案を立案する</li> <li>5. ↑ 指導計画案に基づく実践 (前半)</li> <li>6. ↑ 実践の振り返り (反省・評価)</li> <li>7. ↓ 指導計画案の修正・教材研究</li> <li>8. ↓</li> <li>9. 実践前半のまとめ・記録についてのワンポイントアドバイス</li> <li>10. ↑ 指導計画案に基づく実践 (後半)</li> <li>12. ↑ 実践の振り返り (反省・評価)</li> <li>13. ↓ 指導計画案の修正・教材研究</li> <li>14. ↓</li> <li>15. 実践のまとめ・実習に関わる諸注意・資料配布</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>実習園によって実習の実施方法は異なる。各自が実習園の実習のあり方をよく理解し、疑問や不安については積極的に質問や相談をすること。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>課題 50%、部分実習の実践 50%</p>						

科目	種別	開講時期	授業形態	単位	担当者	テキスト(書名・著者・出版社等)
保育実習Ⅲ (施設)	専門科目	2年次 前期	実習	2	福原 英起	『保育士養成課程 四訂 福祉施設実習ハンドブック』 岡本幹彦、神戸賢次、喜多一憲、児玉俊郎編 みらい 2,000円＋税 随時プリント配布
<p>[授業の概要]</p> <p>「保育実習Ⅲ」は、保育所以外の児童福祉施設等での実習を中心に行う。とくに、施設に関心のある学生や、将来、施設での就職を視野に入れている学生に対し、児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して理解を深めることを目的とする。</p> <p>また、家庭と地域の生活実態を踏まえながら、1年次の児童家庭福祉及び社会的養護Ⅰに対する理解を基軸として、実習を通して、施設職員の保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力等を学ぶ。さらに、日々の実践と結びつけながら施設職員の業務内容、職業倫理についての理解を深め、最終的には、自己覚知による自己課題の明確化を図りながら更なる資質の向上を目指す。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>児童福祉施設（保育所以外）について理解する。  児童館の役割・機能について理解する。  制度・政策について理解する。  専門的知識や技術について理解する。  今後の課題と展望について理解する。</p>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、実習目標の明確化</li> <li>2. 実習目標の発表と相互評価</li> <li>3. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能</li> <li>4. 放課後児童に対する制度・政策1 学童保育の実施状況、待機児童数</li> <li>5. 放課後児童に対する制度・政策2 学年別入所児童数、学童保育の規模等</li> <li>6. 放課後児童に対する制度・政策3 制度上の問題点、従事者の問題点、学童保育の将来像等</li> <li>7. 施設における支援の実際 (1) 受容し、共感する態度</li> <li>8. 施設における支援の実際 (2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解</li> <li>9. 施設における支援の実際 (3) 個別支援計画の作成と実践</li> <li>10. 施設における支援の実際 (4) 子どもの家族への支援と対応</li> <li>11. 施設における支援の実際 (5) 多様な専門職との連携</li> <li>12. 施設における支援の実際 (6) 地域社会との連携</li> <li>13. 自己課題の発表と相互評価</li> <li>14. 実習施設における部分実習の考察</li> <li>15. 部分実習の実演と相互評価</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>実習先の施設に関する情報・資料を収集し、事前学習を行う。  講義の前後には必ずテキストを読み、問題点や疑問点を明確にする。  新聞に目を通し、講義と関係のある記事を読み、出来ればスクラップして感想を書いてみる。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>授業態度、提出物、実習先施設評価表から総合的に判断する。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
保育実習指導Ⅲ (施設)	専門科目	2年次 前期	演 習	1	福原 英起	『保育士養成課程 四訂 福祉施設実習ハンドブック』 岡本幹彦、神戸賢次、喜多一憲、児玉俊郎編 みらい 2,000円＋税 随時プリント配布
<p>[授業の概要]</p> <p>「保育実習指導Ⅲ」は、事前指導の「保育実習Ⅲ」における反省・評価をもとに、自分自身の問題点や課題を明確にすることで、更なる資質の向上を目指す。児童館での実習が多いと思われるが、「保育実習Ⅰ(施設)」で実施した入所・通所を問わず、学生の要望に合わせた施設での実習を考えている。そのため、学生が選択した施設の種別毎に指導していく場合が多くなると思われる。事後指導として、「保育実習Ⅰ(施設)」、「保育実習Ⅲ」の経験を踏まえ、保育所保育士と「施設保育士」の職務や役割、理論と実践との相違点を理解度、自己課題の設定と反省等を繰り返すことで、より施設保育士への理解度を深めることを目的とする。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>児童福祉施設（保育所以外）について理解する。  児童館の役割・機能について理解する。  制度・政策について理解する。  専門的知識や技術について理解する。  今後の課題と展望について理解する。</p>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、実習目標の明確化</li> <li>2. 実習施設の決定</li> <li>3. 実習目標の明確化 1</li> <li>4. 実習目標の明確化 2</li> <li>5. 施設調べ 1</li> <li>6. 施設調べ 2</li> <li>7. 実習計画の立案 1</li> <li>8. 実習計画の立案 2</li> <li>9. 実習日誌の記述方法 1</li> <li>10. 実習日誌の記述方法 2</li> <li>11. 部分実習指導案作成 1</li> <li>12. 部分実習指導案作成 2</li> <li>13. 個別指導</li> <li>14. 事後指導（自己評価・反省、今後の課題のまとめ）</li> <li>15. 事後指導（感想発表、自己評価に対する相互評価）</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>実習先の施設に関する情報・資料を収集し、事前学習を行う。  講義の前後には必ずテキストを読み、問題点や疑問点を明確にする。  新聞に目を通し、講義と関係のある記事を読み、出来ればスクラップして感想を書いてみる。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>提出物、実習日誌、実習先施設評価表等から総合的に判断する。</p>						



科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
保育指導法	専門教育	1年次前期	演習	1	木村 厚子	プリント配布
<p>[授業の概要]</p> <p>保育とは、子どもを人間として尊重し、その最善の利益を守り、よりよい成長・発達を助長する営みである。一人ひとりの乳幼児が安心して生活でき、発達に応じた適切な刺激と援助が与えられることにより、能動的・意欲的に活動ができるような環境が構成されなければならない。保育の環境とは、保育士や子どもなどの人的環境、施設や遊具など物的環境、さらに自然や社会の事象による間接的な保育方法を重視しようとするものである。計画的に環境を構成し、子どもが自発的・自主的に環境に対して働きかけ、活動を展開していくその過程で、さまざまなねらいや目標が達成されることを理解できるよう授業を行う。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児にとっての環境とは何かを理解する。</li> <li>・環境構成と保育者の援助を学ぶ。</li> <li>・演習を通して各年齢の発達に応じた工夫やアイデアを考える。</li> <li>・保育材料の活用と保育の展開を実践できるようにする。</li> </ul>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所という営みについて</li> <li>2. 保育園・幼稚園は今</li> <li>3. 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」と保育の基本</li> <li>4. 子どもの発達と保育のあり方</li> <li>5. 幼児期の発達の特性について</li> <li>6. 環境を通して行う保育</li> <li>7. 遊びの保育的意義</li> <li>8. 子どもの遊びを育てる保育者の役割</li> <li>9. 子どもの自立と基本的生活習慣形成について</li> <li>10. 当番・係活動の展開と指導</li> <li>11. 保育所・幼稚園の行事</li> <li>12. 求められる保育者の姿勢</li> <li>13. 「自由保育」と「一斉保育」の現状と課題</li> <li>14. 知的好奇心を育む保育</li> <li>15. 幼保小連携のあり方について</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>演習に必要な材料を必ず準備する。 課題を期限までに完成させる。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>演習作品・発表 60%、提出物・小テスト 30%、授業態度 10%。</p>						



科 目	種 別	開講時期	授業形態	単 位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
教育実習 I	専門教育	1 年次 前 期	実 習	2	小川 崇 白井智佳子	玉置・島田監修 『幼稚園教育実習』 建帛社 2,100円＋税
<p>〔授業の概要〕</p> <p>教育実習 I では、幼稚園実習に際しての基本的な理解や心構え、具体的な手続きや学習内容の概要、注意事項や留意するべき事柄についての事前指導を行う。実習では、そのことを踏まえて、幼稚園で展開される保育の実際に触れ、個々の子どもの姿や子ども集団における関係のあり方、また保育者の子どもへの直接的・間接的はたらきかけ（援助と環境構成）に関して、見学・観察・参加を通して、具体的に理解することが求められる。実習後には、反省と自己評価を行い、保育者としての自覚の認識と次の実習に向けての課題がもてるよう、事後指導を行う。</p>						
<p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生（社会人）としての常識やマナーを身につける</li> <li>・実習生として積極的に子どもや実習園の保育者と関わり、実際の保育についての理解を深める</li> <li>・実習での経験をふりかえって、次の実習につながる課題を持つ</li> </ul>						
<p>〔授業の計画・内容〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 教育実習の意義と目標</li> <li>3. 実習生（社会人）としての基本的な心構え 自己管理の重要性</li> <li>4. 観察実習の概要</li> <li>5. 観察実習のポイント 見るということの重要性</li> <li>6. 事前オリエンテーションの受け方</li> <li>7. 実習中の基本的な態度とマナー、用意すべき持ち物など</li> <li>8. 実習日誌の作成と活用① 観察日誌Ⅰの記入方法</li> <li>9. 実習日誌の作成と活用② 観察日誌Ⅱの記入方法</li> <li>10. 実習日誌の作成と活用③ その他 実習直前の総点検 (幼稚園実習)</li> <li>11. 事後指導① 礼状の作成と記録の整理</li> <li>12. 事後指導② 記録の整理と自己評価</li> <li>13. 事後指導③ 個別面談（第1グループ）</li> <li>14. 事後指導④ 個別面談（第2グループ）</li> <li>15. 反省と評価 実習後の課題の共有</li> </ol>						
<p>〔学習上の留意点及び準備等〕</p> <p>講義中心になるが、受講生が体を動かして理解を深められるよう進めていきたい。</p>						
<p>〔成績評価方法と評価基準〕</p> <p>事前指導、事後指導、巡回教員による報告書、実習日誌、各種提出物、実習園による評価表によって総合的に評価する。</p>						

科目	種別	開講時期	授業形態	単位	担当者	テキスト(書名・著者・出版社等)
教育実習Ⅱ	専門科目	2年次 通年	実習	3	久保田真規子 小川 崇 白井智佳子	テキスト特になし 随時プリント配布
<p>〔授業の概要〕</p> <p>1年次に行った実習の課題を踏まえた上で、教育実習Ⅱにおいて学ぶべきことは、自ら保育を計画し、実践することを通して、より深く幼稚園における保育を理解することである。具体的には、教育実習Ⅱにおいては、各自が実習園において責任実習（一日・部分）を行うことが求められる。そのためには、子ども理解やそれに基いた子どもへの関わり方を事前に予測し、それに基づいて指導計画案を作成することが求められ、また実践後には自らの予測と実際に行った保育とのずれを認識した上で、次の保育への課題を導き出すことが重要である。そのために、授業内で実際に指導計画案を作成し、模擬実習を行うことによって、より実践的に実習に向けた準備を行いたいと考えている。</p>						
<p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の実習を踏まえた上で、実習生（社会人）らしく振る舞うことができる</li> <li>・実習中に、子どもや保育者と関わることを通して子どもや保育に関する理解を深め、日々行われている保育を記録することができる</li> <li>・子どもたちの様子や季節を踏まえた上で、指導計画案を作成し、保育を実践した上で、自らの課題を見いだすことができる</li> </ul>						
<p>〔授業の計画・内容〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 幼稚園・教育実習Ⅱの意義と位置づけ</li> <li>3. 日誌の書き方</li> <li>4. 指導計画案の立て方</li> <li>5. 指導計画案の立て方</li> <li>6. 模擬保育（教材研究・反省・考察）</li> <li>7.</li> <li>8.</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11.</li> <li>12.</li> <li>13.</li> <li>14. ↓</li> <li>15. 総括</li> </ol>						
<p>〔学習上の留意点及び準備等〕</p> <p>幼稚園実習における、責任実習実践のための指導計画案の立案と教材研究を行う。事前準備、反省、考察を行うこと。</p>						
<p>〔成績評価方法と評価基準〕</p> <p>実習評価表・巡回指導教員からの報告・実習日誌・提出物・学習態度を総合して行う。</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
幼児教育教材研究	専門教育	2年次前期	演習	2	村木 薫 佐々木宏之 永井裕紀子	随時プリントを配布
<p>[授業の概要]</p> <p>①野菜作りコース 野菜を育てる経験や植物をテーマとした保育アイテム作りを通して土や自然界に親しみ、保育実践の幅を広げる。野菜栽培を記録したレポート作成や植物をテーマとした保育アイテムを並行して制作する。</p> <p>②コンピューター応用コース 保育・幼児教育の現場では、コンピューターかデジタル機器が広く導入されている。とりわけ若い世代は、そうした機器の操作を期待されることが多い。そこで、本授業の中で、保育活動へのコンピューターの応用を経験する。</p> <p>③幼児教育教材制作コース ここでは、子どもにとって最も身近な紙素材を中心に制作を行います。紙はアイデア次第で無限に発展します。本授業を通して遊びを創造する楽しさを味わって欲しいと思います。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜の正確な生育状況の把握や生育に必要な知識の習得</li> <li>・植物をテーマとした保育アイテムの知識と技能の習得</li> <li>・一年次に学習したパソコン技術を基礎として、保育現場での応用法を理解する。</li> <li>・クラスだよりの作成をめざし、ワードの特殊な使用法を理解する。</li> <li>・紙素材に親しみ、加工の仕方や道具の扱い方など保育者として必要な知識と技能を習得する。</li> </ul>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <p>①野菜作りコース〈10時間〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 土作り（畝作り・堆肥混入など）</li> <li>2. 苗植え・種まきなど</li> <li>3. 草取り・支柱立てなどの手入れ</li> <li>4. 収穫・試食など（各自で記録をとり、レポート提出する。）</li> <li>5. 植物をテーマとした保育アイテム制作及び発表会</li> </ol> <p>②コンピューター応用コース〈10時間〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピューター、インターネットの操作に慣れる。</li> <li>2. ワードプロソフト「Word」の操作（応用編）</li> <li>3. 表計算ソフト「Excel」の操作（応用編）</li> <li>4. 「Word」を使った園だよりの作成</li> <li>5. 「PowerPoint」を使った紙芝居の作成</li> </ol> <p>③幼児教育教材コース〈10時間〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 段ボールのボール製作（切り出し）</li> <li>2. 段ボールのボール製作（立体化）</li> <li>3. 折り紙の基本製作</li> <li>4. 折り紙の応用製作</li> <li>5. 光る泥だんごの製作</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>授業で配布するプリントは必ず目を通す。 レポートや課題提出にあたり提出締め切りは必ず守る。 野菜作りコースでは授業日以外にも水をあげたり、各自の責任において世話をすることを忘れない。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>受講態度 20% 制作課題 80% 計 100%</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単 位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)		
コンピューター基礎	専門教育	1年次 通 年	演 習	2	東川 輝久 落合 純 鈴木 翔	「30時間でマスター office 2013」 実教出版 1,000円+税		
<p>[授業の概要]</p> <p>この授業は幼稚園教諭免許取得に必修な科目で、情報機器の操作に慣れることを目的にしています。</p> <p>情報機器といってもさまざまであるが、代表的なものはパソコンであり、学業の場面だけではなく、保育士として社会に出た際にも使わなければならない状況は多々あると思います。そして、MicrosoftのOfficeというソフトを使用する機会が多くなると思います。そこで、本授業では、MicrosoftのOfficeを使用し、ワープロ、プレゼン、表計算を学びつつ、情報機器の操作に慣れてもらいます。</p> <p>さらに、インターネットや電子メール、タイピングなど、情報機器を使う上で備えておくべき知識や技能についても触れていきます。</p>								
<p>[授業科目の到達目標]</p> <p>情報機器の操作を修得する。          タイピングを修得する。          Windowsの操作と基本機能を理解する。          インターネットや電子メールの基本操作を理解する。          アプリケーションソフトの基本操作を修得し、応用能力を高める。</p>								
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>[授業の計画・内容]</p> <p>[前 期]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 Windowsの基礎知識, タイピング</li> <li>3 コンピュータとインターネット</li> <li>4 電子メール</li> <li>5 Wordによる文書の作成 1</li> <li>6 Wordによる文書の作成 2</li> <li>7 Wordによる文書の作成 3</li> <li>8 Wordによる文書の作成 4</li> <li>9 Wordによる文書の作成 5</li> <li>10 Wordによる文書の作成 6</li> <li>11 PowerPointによるスライドの作成 1</li> <li>12 PowerPointによるスライドの作成 2</li> <li>13 PowerPointによるスライドの作成 3</li> <li>14 PowerPointによるプレゼン 1</li> <li>15 PowerPointによるプレゼン 2</li> </ol> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>[後 期]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16 復習テスト</li> <li>17 Excelによる表計算 1</li> <li>18 Excelによる表計算 2</li> <li>19 Excelによる表計算 3</li> <li>20 Excelによる表計算 4</li> <li>21 Excelによる表計算 5</li> <li>22 Excelによる表計算 6</li> <li>23 Excelによる表計算 7</li> <li>24 Excelによる表計算 8</li> <li>25 Excelによる表計算 9</li> <li>26 Excelによる表計算 10</li> <li>27 Excelによる表計算 11</li> <li>28 Excelによる表計算 12</li> <li>29 総合演習 1</li> <li>30 総合演習 2</li> </ol> </td> </tr> </table>							<p>[授業の計画・内容]</p> <p>[前 期]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 Windowsの基礎知識, タイピング</li> <li>3 コンピュータとインターネット</li> <li>4 電子メール</li> <li>5 Wordによる文書の作成 1</li> <li>6 Wordによる文書の作成 2</li> <li>7 Wordによる文書の作成 3</li> <li>8 Wordによる文書の作成 4</li> <li>9 Wordによる文書の作成 5</li> <li>10 Wordによる文書の作成 6</li> <li>11 PowerPointによるスライドの作成 1</li> <li>12 PowerPointによるスライドの作成 2</li> <li>13 PowerPointによるスライドの作成 3</li> <li>14 PowerPointによるプレゼン 1</li> <li>15 PowerPointによるプレゼン 2</li> </ol>	<p>[後 期]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16 復習テスト</li> <li>17 Excelによる表計算 1</li> <li>18 Excelによる表計算 2</li> <li>19 Excelによる表計算 3</li> <li>20 Excelによる表計算 4</li> <li>21 Excelによる表計算 5</li> <li>22 Excelによる表計算 6</li> <li>23 Excelによる表計算 7</li> <li>24 Excelによる表計算 8</li> <li>25 Excelによる表計算 9</li> <li>26 Excelによる表計算 10</li> <li>27 Excelによる表計算 11</li> <li>28 Excelによる表計算 12</li> <li>29 総合演習 1</li> <li>30 総合演習 2</li> </ol>
<p>[授業の計画・内容]</p> <p>[前 期]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 Windowsの基礎知識, タイピング</li> <li>3 コンピュータとインターネット</li> <li>4 電子メール</li> <li>5 Wordによる文書の作成 1</li> <li>6 Wordによる文書の作成 2</li> <li>7 Wordによる文書の作成 3</li> <li>8 Wordによる文書の作成 4</li> <li>9 Wordによる文書の作成 5</li> <li>10 Wordによる文書の作成 6</li> <li>11 PowerPointによるスライドの作成 1</li> <li>12 PowerPointによるスライドの作成 2</li> <li>13 PowerPointによるスライドの作成 3</li> <li>14 PowerPointによるプレゼン 1</li> <li>15 PowerPointによるプレゼン 2</li> </ol>	<p>[後 期]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16 復習テスト</li> <li>17 Excelによる表計算 1</li> <li>18 Excelによる表計算 2</li> <li>19 Excelによる表計算 3</li> <li>20 Excelによる表計算 4</li> <li>21 Excelによる表計算 5</li> <li>22 Excelによる表計算 6</li> <li>23 Excelによる表計算 7</li> <li>24 Excelによる表計算 8</li> <li>25 Excelによる表計算 9</li> <li>26 Excelによる表計算 10</li> <li>27 Excelによる表計算 11</li> <li>28 Excelによる表計算 12</li> <li>29 総合演習 1</li> <li>30 総合演習 2</li> </ol>							
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>実際の授業はパソコンを使う実習授業となる。自学自習も大いに必要となる。積極的な取り組みを期待する。</p>								
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>演習課題、宿題、小テスト、受講態度を総合的に評価します。</p>								

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
レクリエーション概論	専門科目	1年次前期	講 義	2	坂内 寿子	レクリエーション支援の基礎 (財)日本レクリエーション協会 編集・出版 2,100円
<p>[授業の概要]</p> <p>レクリエーションは、健康づくりや高齢者・障害者福祉、子育て支援、保育、教育、地域づくり、環境教育など、幅広い領域で用いられている。</p> <p>本授業はレクリエーションに関する基礎及び指導の理論を学習することによりレクリエーション支援者としての能力を高めることを目的に授業を行う。</p> <p>この科目はレクリエーションインストラクター資格取得のための必修科目である。</p>						
<p>[授業科目の到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語源や定義、これまでの歴史からレクリエーションの意義について理解する。</li> <li>・レクリエーション運動を支える制度について理解する。</li> <li>・レクリエーションによる支援の考え方について理解する。</li> <li>・ライフステージごとの課題とそれに対するレクリエーション支援者として働きかけることのできる事柄を挙げる。</li> <li>・イベント（行事）を実際に運営していく基本的な手順とスタッフの役割を理解する。</li> </ul>						
<p>[授業の計画・内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 レクリエーションとは何か、レクリエーションの歴史とその背景</li> <li>2 レクリエーションへの期待、人を支える「支援者」にとってのレクリエーション</li> <li>3 レク運動の使命、公認指導者制度、レクリエーション組織</li> <li>4 レクリエーション支援の考え方、レクインストラクターの役割</li> <li>5 ライフステージごとの課題</li> <li>6 ライフステージごとの課題とレクリエーション</li> <li>7 家族とレクリエーション</li> <li>8 少子高齢社会の課題とレクリエーション</li> <li>9 地域とレクリエーション</li> <li>10 レク事業の考え方と展開方法</li> <li>11 プログラムの組み立て方、グループ運営、安全管理</li> <li>12 事業計画①（市民を対象とした事業の作り方）</li> <li>13 事業計画②（対象を選択）</li> <li>14 レクリエーション活動の安全管理（事故の対応）</li> <li>15 授業全般のふりかえり</li> </ol>						
<p>[学習上の留意点及び準備等]</p> <p>各授業の終わりに次回の学習範囲について伝えるので、テキストには目を通しておくこと。</p>						
<p>[成績評価方法と評価基準]</p> <p>定期試験（筆記）</p>						

科 目	種 別	開講時期	授業形態	単位	担 当 者	テキスト(書名・著者・出版社等)
レクリエーション 実習Ⅱ	専門教育	1年次 集 中	演 習	1	坂内 寿子 中島 孝子	資料を配布
<p>〔授業の概要〕</p> <p>長期休暇を活用し、スキー、ボウリング、ニュースポーツなどレクリエーション実技を学外の施設・自然を活用しながら学習する。</p> <p>また、市町村のイベントへの参加を流動的に取り上げ、交流を深める幅広い活動を体験することにより、レクリエーション事業のプログラム・運営の方法を学習する。市町村のレクリエーションイベント参加は、集団で1回、個々に3回実施する。</p> <p>この科目はレクリエーションインストラクター資格取得申請のための必修科目である。</p> <p>指導形態は2名の教員が授業を展開するが、種目によって現地インストラクターも指導に加わる。</p>						
<p>〔授業科目の到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なレクリエーション・スポーツ種目が、あることを認識し、ルールを理解する。</li> <li>・初級斜面を無理なく滑走できる技能を身につける。</li> </ul>						
<p>〔授業の計画・内容〕</p> <p>1 ボウリング、ニュースポーツ、(インディアカ、チャレンジ・ザ・ゲームの種目)</p> <p>期日：9月13日(水)・9月14日(木) (2日間)</p> <p>場所：本学体育館、三条サカイボウリング場</p> <p>経費：2,500円程度</p> <p>2 スキー</p> <p>期日：2月22・23・24日 (2泊3日)</p> <p>場所：赤倉観光リゾートスキー場</p> <p>経費：25,000円程度 (スキー用具・ウェアのレンタル料は別)</p> <p>3 イベントの参加 (県レク協会、地域市町村との交流)</p> <p>(1) 新潟県レクリエーション課程認定校 第4回学生研究集会</p> <p>期日：未 定</p> <p>場所：未 定</p> <p>(2) 市町村団体・市町村レク協会イベントに1・2年次を通して、3回参加する。</p>						
<p>〔学習上の留意点及び準備等〕</p> <p>夏季と冬季に集中授業を行うので季節に応じた服装で臨み、携行品 (飲み物、タオル等) を持参する。</p>						
<p>〔成績評価方法と評価基準〕</p> <p>授業の参加態度を重視して評価する。</p>						